

## 平成 29 年度 第2回 水工学委員会

日 時：平成 30 年 3 月 5 日（月）18:00～20:00  
場 所：岡山大学津島キャンパス 一般教育棟 A32

### 《報告事項》

1. 平成29-30年度水工学委員会構成 資料 1 p.1
2. 平成29年度水工学論文集編集作業 資料 2 p.3
3. 各部会、小委員会、関連委員会の活動報告及び活動計画 資料 3 p.8
  - 部会：水文部会（資料 3-1）、河川部会、基礎水理部会（資料 3-2）  
環境水理部会（資料 3-3）
  - 常置小委員会：ISO/TC113（資料 3-4）、水害対策（資料 3-5）
  - 研究小委員会：流量観測高度化（資料 3-6）、グローバル気候変動適応研究推進（資料 3-7）
  - 関連委員会：出版委員会（資料 3-8）、減災・防災委員会（資料 3-9）、河川懇談会、海岸（資料 3-10）、CommonMP、流域管理と地域計画の連携、沿岸域気候変動（資料 3-11）、沿環  
連、地球環境、環境システム、ISO対応、アゲールシンポ
4. 平成30年度全国大会 共通セッションについて 資料 4 p.44
5. 第8回アジア土木技術国際会議（CECAR8） 資料 5 p.45
6. その他

### 《協議事項》

1. 平成30年度の年間スケジュール 協議資料 1 p.46
2. 平成30年度第63回水工学講演会（北海道大学） 協議資料 2 p.47
3. 平成30年度水工学論文集編集作業 協議資料 3 p.68
4. 平成30年度第23回水シンポジウム（静岡） 協議資料 4 p.71
5. 平成31年度第 24回水シンポジウム開催地 協議資料 5 p.81
6. 平成30年度 第54回水工学に関する夏期研修会について（山口大学） 協議資料 6 p.82
7. 土木学会論文集B部門合同編集小委員会の次期委員推薦 協議資料 7 p.85
8. グローバル気候変動適応研究推進小委員会規約 協議資料 8 p.86
9. 平成30年度全国大会 研究討論会 協議資料 9 p.88
10. 英文論文集に関する提案 協議資料 10 p.89
11. その他



## 水工学委員会委員名簿（案）

## 幹事

## 【専門委員】16名

木村 一郎（北大）	○ 基礎水理部会長
中嶋 規夫（日本工営）	
沖 大幹（東大）	
清水 義彦（群馬大）	○ 水理公式集幹事長
清水 康行（北大）	水工学委員長
泉 典洋（北大）	○ 土木学会論文集B部門編集委員長
大石 哲（神戸大）	○ 水文部会長
竹林 洋史（京大防災研）	○ 水工学委員会幹事長、水害対策小委員会幹事長
中山 恵介（神戸大）	○ 地球環境委員会、前水工学委員会幹事長
中津川 誠（室蘭工大）	
朝位 孝二（山口大）	○ ホームページ担当、H30年度夏期講習会候補地
鼎 信次郎（東京工大）	○ アゲール担当
田中 仁（東北大）	IAHR日本支部長
風間 聡（東北大）	○ 水害対策小委員会委員長
里深 好文（立命館大）	
立川 康人（京大）	○ CommonMP開発・運営コンソーシアム委員、土木計画学委員会・流域管理と地域計画の連携方策研究小委員会幹事長

## 【海岸工学委員会との交換委員】1名（定員外）

岡田 知也（国総研）

## 【地区委員】33名（定員33名）

## &lt;北海道 2名&gt;

山田 朋人（北海道大学） ○ H30年度水工学講演会候補地

駒井 克昭（北見工業大学）

## &lt;東北 2名&gt;

梅田信（東北大）

川越 清樹（福島大） ○

## &lt;関東 15名&gt;

浅沼 順（筑波大）

諏訪 義雄（国総研）

今村 正裕（電中研） ○

石平 博（山梨大） ○

神田 学（東京工大）

宮本 仁志（芝工大） ○ 編集小委員会幹事長

関根 正人（早稲田大）

田中 規夫（埼玉大）

知花 武佳（東大）

天野 光歩（建設技術研究所）

中込 淳（国交省水管理・国土保全局）

川口 智哉（日水コン）

二瓶 泰雄（東京理科大） ○ 沿岸環境関連学会連絡協議会

渡邊 明英（東京建設コンサルタント）

横山 勝英（首都大学東京） 沿岸環境関連学会連絡協議会

## &lt;中部 3名&gt;

原田 守博（名城大）

鈴木 正人（岐阜工専）

戸田 祐嗣（名古屋大） ○ 河川部会長

## &lt;関西 6名&gt;

小河 健一郎（パシフィックコンサルタント）

入江 政安（大阪大） ○ 海岸工学委員会担当、H29年度夏期講習会担当

竹原 幸生（近畿大学）

堀 智晴（京大防災研）

角 哲也（京大防災研）

藤田 一郎（神戸大） ○ 流量観測技術高度化研究小委員会委員長

## &lt;中国 2名&gt;

吉田 圭介（岡山大） ○ H29年度水工学講演会開催地

矢島 啓（島根大） ○ 環境水理部会長

## &lt;四国 1名&gt;

張 浩（高知大） ○

## &lt;西部 2名&gt;

矢野 真一郎（九州大） ○ グローカル小委員会委員長

杉原 裕司（九州大）

## 【オブザーバー】1名

堀田 哲夫（建設技研）

ISO/C113小委員会委員長

## 【顧問】

小松 利光（九大）

辻本 哲郎（名大）

山田 正（中央大）

中川一（京大防災研）

寶 馨（京大防災研）

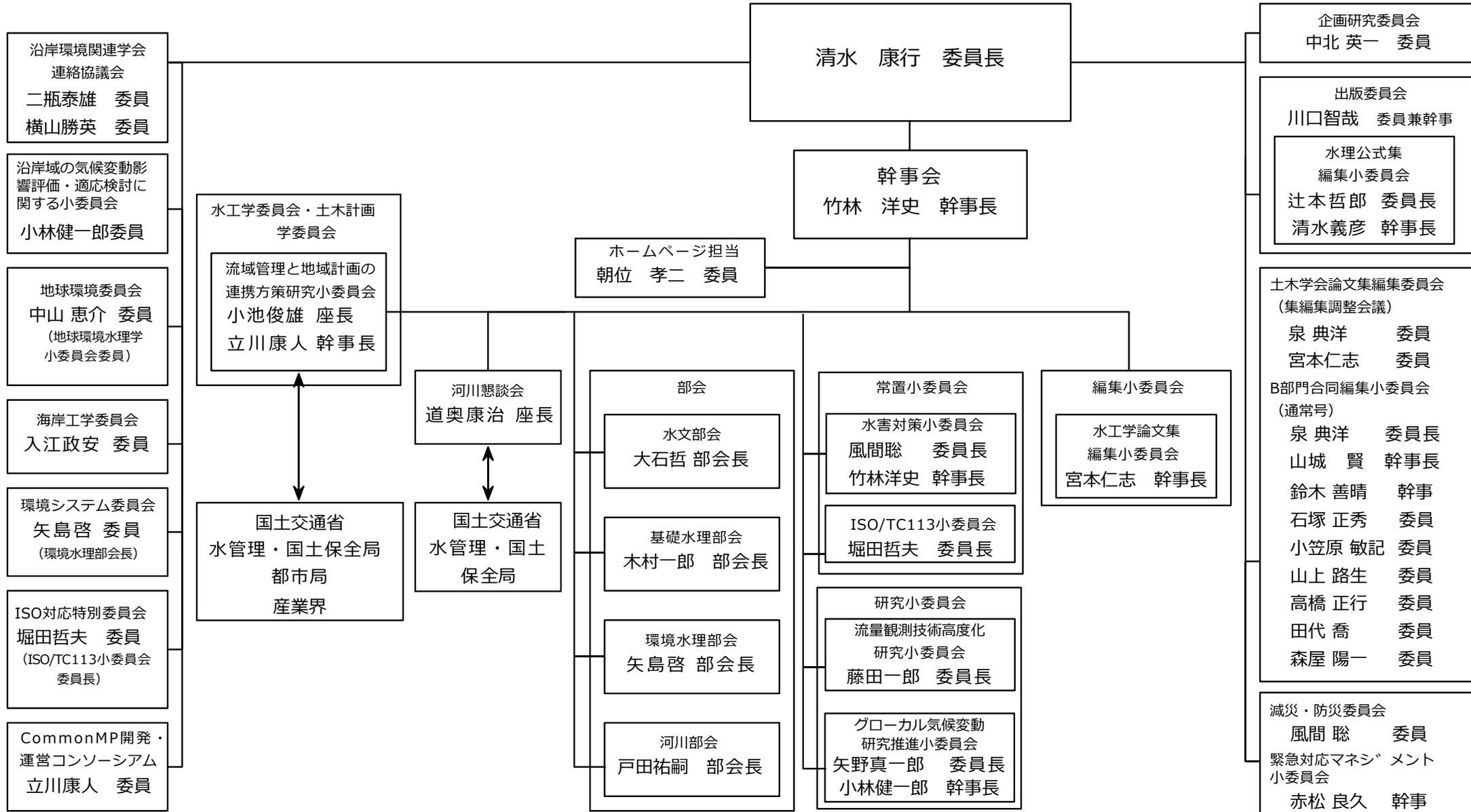
道奥 康治（法政大学）

水理公式集編集小委員会委員長

CommonMPコンソーシアム幹事長

河川懇談会座長

# 2017-2018 水工学委員会



# 1. 投稿数・採択数

投稿数: 344編    採択数: 258編    ※ 「通常号」からの講演: 5編

巻	年	投稿数	採択数	採択率
53	2009	343	255	74.3
54	2010	363	276	76.0
55	2011	379	283	74.7
56	2012	403	301	74.7
57	2013	386	303	78.5
58	2014	348	274	78.7
59	2015	317	250	78.9
60	2016	317	231	72.9
61	2017	327	245	74.9

# 分野別: 水文、水災害・防災・減災分野へ多くの投稿!

分野	査読キーワード	キーワード別		分野別		採択率
		投稿数	採択数	投稿数	採択数	
水文	水文気象プロセス	19	13	95	74	77.9
	生態水文	1	1			
	気候変動とリスク評価	21	17			
	降水	13	11			
	流出解析	16	11			
	水文統計／水文情報	9	8			
	雪氷水文	6	6			
	地下水・浸透	10	7			
水災害・ 防災・減 災	流域管理・洪水リスク管理	22	18	83	65	78.3
	水災害・防災・減災	44	33			
	水害・氾濫の水理	17	14			
流砂	流域土砂動態	8	8	44	36	81.8
	流砂	14	10			
	河床形態・流路形態	11	9			
	河床変動	11	9			
河川水理	管路・局所流	1	1	53	40	75.5
	開水路の水理	20	15			
	密度流・噴流・拡散	0	0			
	水理現象の数値解析	14	12			
	流体力・流体振動・波動	2	1			
	観測技術	16	11			
河川環境	河道・流域の環境・環境評価	9	7	41	26	63.4
	流域の流出負荷・河川の水質	7	3			
	水生生物・魚道	16	9			
	河道の植生	5	5			
	河道の物理環境	4	2			
湖沼・ダ ム、沿岸	湖沼・貯水池の水理と環境	8	4	28	17	60.7
	沿岸・河口域の水理と環境	14	8			
	津波	6	5			
	計	344	258	344	258	75.0

## 2. 『講演会としての活性化』を目指した試み

昨年度からの継続

- ・通常セッションと国際セッションの融合
- ・司会者2名体制(シニア・中堅＋若手)
- ・各セッションに総合討議の時間を配置.
- ・アウトスタンディング・ディスカッション賞

### Best International Paper Award (水工学論文集62巻)

受賞者: Magfira SYARIFUDDIN (Kobe University)

受賞論文: EMPIRICAL MODEL FOR REMOTE MONITORING  
OF RAIN-TRIGGERED LAHAR AT MOUNT MERAPI

(共著者: Satoru OISHI, Ratih Indri HAPSARI, and Djoko LEGONO)

### 3. 編集体制・予算・編集作業上の取組み

- ・「湖沼・ダム」、「沿岸」の分野を合併し、「湖沼・ダム, 沿岸」の分野として新設。
- ・第2回編集小委員会(11月開催)をメール審議に変更
- ・「査読の正常化」の徹底
- ・「返却論文に対する修正意見の開示」の試み

# 企業広告を論文集CDに導入(枠組み作りを含む)

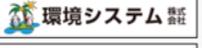
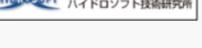
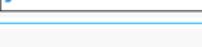
**土木学会論文集 B1 (水工学)**  
Vol. 74, No. 4, 2018  
Journal of Japan Society of Civil Engineers,  
Ser. B1 (Hydraulic Engineering), Vol. 74(2018), No. 4

**水工学論文集 第62巻**  
Annual Journal of Hydraulic Engineering, JSCE Vol. 62  
平成30年2月  
土木学会水工学委員会

序  
目次 | Contents  
セッション・リスト / Session List  
委員構成 | 査読員名簿

講演会と関連行事のプログラム / Program of Conference and Related Events (PDF)

関連業界案内 (PDF)

 株式会社 エイト日本技術開発 Eight-Japan Engineering Consultants Inc.	 環境システム 株式会社 Tokai Environmental Systems Co., Ltd.	 CTI 建設技術研究所 http://www.ctie.co.jp
 株式会社 ドーコン Dicon Co., Ltd.	 新東京建設コンサルタント TOKEN C. E. E. Consultants Co., Ltd.	 NEJEC
 NIPPON KOEI 日本工営株式会社	 HYDROSOFT 株式会社 ハイドロソフト技術研究所	 Pacific Consultants
 YEO 八千代エンジニアリング株式会社		

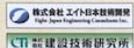
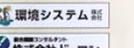
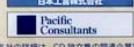
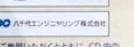
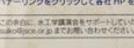
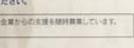
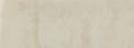
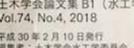
(五十音順)

CD-ROMについて

## 第62回 水工学講演会 関連業界案内

<p>国土交通大臣登録 建26第116号</p> <p> <b>株式会社 エイト日本技術開発</b> Eight-Japan Engineering Consultants Inc.</p> <p>代表取締役社長 小谷 裕 司</p>	<p>河川、砂防、港湾分野など水を取り巻くインフラ整備において、 新技術を活用した“水ソリューション”を提供しています。</p> <p><b>主要商品:</b> 河川・ダム・砂防・農業土木・港湾・海岸施設の計画・設計、総合土砂管理、河川浸水・津浪・高潮等のシミュレーション解析と防災対策、各施設の耐震解析・設計・長寿命化計画、自然再生・水辺環境整備・利活用計画</p> <p>本 社: 〒700-8617 岡山県岡山市北区津島町三丁目1番21号 TEL: 086-252-8917 ホームページ: <a href="http://www.ejec.ej-hds.co.jp/index.html">http://www.ejec.ej-hds.co.jp/index.html</a></p> <p> AUV(自走式水中ロボット)による 水域環境調査の展開 (H29年度導入)</p>
<p> <b>環境システム 株式会社</b> Tokai Environmental Systems Co., Ltd.</p> <p>代表取締役社長 鮎川 和 泰</p> <p>国土交通大臣登録 建26第133号</p>	<p><b>取扱製品:</b> ■多項目水質計 水温・濁度・溶存酸素・フロロフィルa・pH 電導度・ORP・フィコシアニン等 ■水質計自動昇降装置</p> <p>本 社: 〒660-0083 兵庫県尼崎市道意町7-1-3 ARIO TEL: 06-6657-5130 ホームページ: <a href="http://www.hydrolab.co.jp/">http://www.hydrolab.co.jp/</a></p> <p><b>業務内容:</b> 1.建設関係の調査、計画、設計</p> <p></p>

水工学講演会の開催にあたり、本欄に掲載の企業・団体よりご支援いただいております。

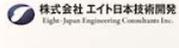
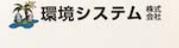
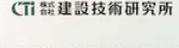
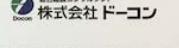
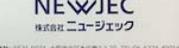
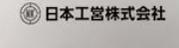
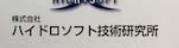
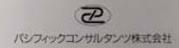
 株式会社 エイト日本技術開発 Eight-Japan Engineering Consultants Inc.	 環境システム 株式会社 Tokai Environmental Systems Co., Ltd.
 CTI 建設技術研究所 http://www.ctie.co.jp	 株式会社 ドーコン Dicon Co., Ltd.
 新東京建設コンサルタント TOKEN C. E. E. Consultants Co., Ltd.	 NEJEC
 NIPPON KOEI 日本工営株式会社	 HYDROSOFT 株式会社 ハイドロソフト技術研究所
 Pacific Consultants	 YEO 八千代エンジニアリング株式会社

各社の詳細は、CD 論文集の関連企業案内をご参照いただくとともに、CD 内の  
パターニングをクリックして各社 HP をご覧ください。

この冊子に、水工学講演会をサポートしていただいた企業からの支援を御礼申し上げます。  
お問い合わせ先は、CD-ROMの封筒裏面に記載しております。

土木学会論文集 B1 (水工学)  
Vol.74, No.4, 2018  
平成 30 年 2 月 10 日発行  
編集者: 土木学会水工学委員会  
発行所: 〒160-0004  
東京都新宿区西谷 1 丁目 5 番 外 公 園  
公益社団法人 土木学会  
<http://www.jsec.or.jp>  
製 作: 秋田洋装印刷株式会社

水工学講演会の開催にあたり、本欄に掲載の企業・団体よりご支援いただいております。  
各社の詳細は、CD論文集の関連企業案内をご参照いただくとともに、CDROMのパターニングをクリックして各社ホームページをご覧ください。

<p> 株式会社 エイト日本技術開発 Eight-Japan Engineering Consultants Inc.</p> <p>本 社: 〒700-8617 岡山県岡山市北区津島町三丁目1番21号 TEL: 086-252-8917 ホームページ: <a href="http://www.ejec.ej-hds.co.jp/index.html">http://www.ejec.ej-hds.co.jp/index.html</a></p>	<p> 環境システム 株式会社 Tokai Environmental Systems Co., Ltd.</p> <p>本 社: 〒660-0083 兵庫県尼崎市道意町7-1-3 ARIO TEL: 06-6657-5130 ホームページ: <a href="http://www.hydrolab.co.jp/">http://www.hydrolab.co.jp/</a></p>
<p> CTI 建設技術研究所 http://www.ctie.co.jp</p> <p>本 社: 〒103-8430 東京都中央区日本橋區三丁目1-10 日本橋区イブイ TEL: 03-3668-0451 (代表) ホームページ: <a href="http://www.ctie.co.jp">http://www.ctie.co.jp</a></p>	<p> 株式会社 ドーコン Dicon Co., Ltd.</p> <p>本 社: 〒100-8585 東京都千代田区千代田1-1-13 4F TEL: 03-5561-1500 ホームページ: <a href="http://www.dicon.co.jp/">http://www.dicon.co.jp/</a></p> <p style="text-align: center;">自然と人を結ぶ</p>
<p> 新東京建設コンサルタント TOKEN C. E. E. Consultants Co., Ltd.</p> <p>本 社: 〒170-0004 東京都豊島区北町1-15-4 TEL: 03-5960-2633 ホームページ: <a href="http://www.token.co.jp/">http://www.token.co.jp/</a></p>	<p> NEJEC 株式会社 ニュージェック</p> <p>大塚本社: 〒531-0274 大阪府北区本庄3-3-20 TEL: 06-6374-4901 (代) 東京本社: 〒136-0071 東京都江戸川区南小岩1-5-7 TEL: 03-5638-7201 (代) ホームページ: <a href="http://www.nejec.co.jp/">http://www.nejec.co.jp/</a></p>
<p> 日本工営株式会社</p> <p>本 社: 〒100-8533 東京都千代田区丸の内1-1-6 TEL: 03-5561-3531 ホームページ: <a href="http://www.koei.co.jp/">http://www.koei.co.jp/</a></p>	<p> 株式会社 ハイドロソフト技術研究所</p> <p>本 社: 大阪府北区中津島3-23 中之島グランドビル TEL: 06-5479-3621 ホームページ: <a href="http://www.hydro-soft.co.jp/">http://www.hydro-soft.co.jp/</a></p>
<p> パシフィックコンサルタンツ株式会社</p> <p>本 社: 〒701-8442 東京都宇治郡宇治町三丁目22番地 TEL: 03-6773-3001 (代表) ホームページ: <a href="http://www.pacj.co.jp/">http://www.pacj.co.jp/</a></p>	<p> YEO 八千代エンジニアリング株式会社</p> <p>本 社: 〒701-8442 東京都宇治郡宇治町三丁目22番地 TEL: 03-6773-3001 (代表) ホームページ: <a href="http://www.yeo-eng.co.jp/">http://www.yeo-eng.co.jp/</a></p> <p style="font-size: small;">水工学委員会では、水工学講演会をサポートしていただいた企業からの支援を御礼申し上げます。お問い合わせ先は、CD-ROMの封筒裏面に記載しております。</p>

# 水文部会構成

- 部会長
  - 大石哲(神戸大学・理化学研究所計算科学研究機構)
- 副部会長
  - 鼎先生(東京工業大学)
- 河川部会連携委員
  - 吳先生(富山県立大学)
  - 仲吉先生(東京理科大学)
- 地球環境委員会委員
  - 佐山先生(京大)

# 水文部会2017年度報告

- 水文部会 2017年9月11日(月)12:15～13:00
  - 九州大学ウエスト2号館3階318
  - 参加者8名
- 第18回地下環境水文学に関する研究集会
  - 7月8日(土)～9日(日)
  - 和歌山県立文化会館(中川啓先生)
- 水文部会研究集会
  - 9月29日金曜～30日土曜
  - 鹿児島島, 種子島, JAXA種子島宇宙センター



研究会  
西之表市民会館会議室

発表  
鼎先生  
田中颯馬さん  
田村先生  
渡部先生

# 水文部会2017年度計画

- 第2回水文部会
  - 水工学講演会の期間中
  - 岡山大学

# 水文部会2017年度計画

- 水文部会セミナー
  - 場所：岡山国際交流センター 7階 多目的ホール
  - 14時30分セミナー開始
  - リアルタイムの水位予測の精度向上について
    - 話題提供者 立川先生(京都大学)
    - 話題提供者 森山先生(福岡工業大学)
  - 国際エディター, レビューアーから若手へ
    - 話題提供者 国際エディターとして 鼎先生(東京工業大学)
    - 話題提供者 国内学会の編集者として 大石(神戸大学)

# 水文部会2018年度計画

- 第1回水文部会 2017年8月29日～31日
  - 北海道大学(全国大会期間中)
- 第19回地下環境水文学に関する研究集会
- 水文部会研究集会
  - 11月9日金曜～10日土曜
  - 大井川
- 第2回水文部会 11月に北海道だと近すぎるので要検討

## 基礎水理部会活動報告（水工学委員会(2018.3.5)）

## 1. 会員の異動

オブザーバー制の導入により、6名の部会員がオブザーバーに移行となった。5名の若手研究者が新たに部会員に加わった。

## 土木学会 水工学委員会 基礎水理部会 名簿(2017.10.31現在)

	氏名	所属	
1 部会長	木村 一郎	北海道大学	工学研究科 北方圏環境政策工学専攻
2 副部会長	杉原 裕司	九州大学	総合理工学研究院 流体環境理工学部
3 幹事	横嶋 哲	静岡大学	学術院工学領域 数理システム工学系列
4	赤穂 良輔	岡山大学	大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻
5	泉 典洋	北海道大学	工学研究科 環境フィールド工学専攻
6	井上 卓也	土木研究所	寒地土木研究所
7	岩崎 理樹	土木研究所	寒地土木研究所 寒地河川チーム
8	鶴崎 賢一	群馬大学	理工学府 環境創生部門
9	内田 龍彦	広島大学	大学院工学研究科 社会基盤環境工学
10	岡本 隆明	京都大学	大学院工学研究科 社会基盤工学専攻
11	鬼東 幸樹	九州工業大学	工学部 建設社会工学科
12	音田 慎一郎	京都大学	工学研究科 都市社会工学専攻
13	門田 章宏	愛媛大学	工学研究科 生産環境工学専攻
14	神田 佳一	明石工業高専	都市システム工学科
15	山上 路生	京都大学	工学研究科 社会基盤工学専攻
16	関根 正人	早稲田大学	創造理工学部 社会環境工学科
17	高岡 広樹	八千代エンジニアリング	九州支店
18	高橋 正行	日本大学	理工学部 土木工学科
19	高濱 淳一郎	京都府立大学	生命環境学部 森林科学科
20	田中 規夫	埼玉大学	理工学研究科 環境システム工学専攻
21	堀 大三	京都大学	防災研究所
22	椿 涼太	名古屋大学	大学院工学研究科 土木工学専攻
23	永野 博之	群馬高専	環境都市工学科
24	原田 守啓	岐阜大学	流域圏科学研究センター
25	久末 信幸	関西電力	技術研究所
26	檜谷 治	鳥取大学	工学部 土木工学科
27	本田 隆英	大成建設	技術センター 社会基盤技術研究部
28	溝口 敦子	名城大学	理工学部 社会基盤デザイン工学科
29	吉田 圭介	岡山大学	環境生命科学研究科
30			
31 オブザーバー	大本 照彦	熊本大学	自然科学研究科 社会環境工学専攻
32 オブザーバー	星深 好文	立命館大学	理工学部 都市システム工学科
33 オブザーバー	宮永 晃宏	名古屋工業大学	工学研究科 社会工学専攻
34 オブザーバー	羽田野 装義	山口大学	工学部 社会建設工学科
35 オブザーバー	藤田 一郎	神戸大学	工学研究科 市民工学専攻
36 オブザーバー	前野 詩朗	岡山大学	環境生命科学研究科

## 3. 現場見学会は中止

現場見学会を、2017.10.22-2017.10.24の三日間の日程で、対象河川を大井川・安倍川とし、参加者数10名のもとで実施する予定であった。しかし、あいにく台風が静岡地方に襲来し、現場担当者の対応が困難と判断したため、全ての日程をキャンセルした。なお、来年度の見学会はほぼ同一の行程で実施を予定している。

## 2. 水シンポジウム（沖縄、2017.10.31~2017.11.1）

基礎水理部会のコンセプトを示すポスター展示を行った。部会長が同シンポジウムに参加した。

## 3. 基礎水理シンポジウムの実施

テーマ：「乱流研究クロスオーバー：流体物理学から水理学まで」



講演者（敬称略）、講演題目：

岡本隆明（京都大学大学院工学研究科社会基盤工学専攻助教）

「植生流れの乱流構造の遷移・発達過程と組織渦の3次元構造について」

河原源太（大阪大学大学院基礎工学研究科非線形力学領域教授）

「矩形ダクト乱流の二次流れ」【基調講演1】

佐野雅己（東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授）

「層流・乱流転移と有向パーコレーション相転移」【基調講演2】

鶴崎賢一（群馬大学大学院理工学府環境創生部門准教授）

「Langmuir 循環流の形成機構と湖沼・沿岸域の水質環境における影響」

井上道雄（Mathworks Japan）

「Wall-modeled LES applied to the at-plate turbulent boundary layer」

岩山隆寛（神戸大学大学院理学研究科惑星学専攻准教授）

「地球大気における大規模・中規模乱流のエネルギースペクトル」



**公益社団法人 土木学会**  
JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS



### 基礎水理シンポジウム 2017

#### 「乱流研究クロソオーバー：流体物理学から水理学まで」

[http://www.jsce.or.jp/committee/hydraulic/kisosuiri/h29/kiso\\_suiri\\_symp\\_2017.html](http://www.jsce.or.jp/committee/hydraulic/kisosuiri/h29/kiso_suiri_symp_2017.html)

主催：	公益社団法人 土木学会 水工学委員会 基礎水理部会
日時：	2017年12月06日（水） 10:20-17:25
会場：	土木学会 講堂（東京都新宿区四谷一丁目 外濠公園内） <a href="http://www.jsce.or.jp/contact/map.shtml">http://www.jsce.or.jp/contact/map.shtml</a>
定員：	120名
CPD単位：	5.3単位
参加方法：	当日会場にお越しください。
参加料：	無料

「ながれ」を知ること、これは水工学の最も大切なベースであることに疑いの余地はありません。近年の巨大災害の頻発化、水環境問題の深刻化等の諸問題の根源にあるのは、水や土砂などの「ながれ」であり、これを支配するのは古典的な力学です。この一見クラシカルな力学の世界は、ながれが「乱流」となると途端にそれは深淵となり、底知れぬ未知の世界が広がります。ながれの非線形性と散逸性が紡ぐ乱流の姿は、時として神秘的で美しく、われわれを魅了してやみません。

水工学の最近の研究は、災害、環境などの喫緊の課題に速やかに応え、現実的な対応策を提示し、社会に貢献することを足とするトレンドにあり、もちろんこれは研究者・技術者の大切な役割です。しかし、実務的な課題に追われ、様々な事象の根底に潜むながれ（乱流）の面白さや不思議さは置き去りにされがちです。しかし、このような時流だからこそ、今一度原点に立ち返って、その美しい世界に純粋な目を向けてみるべきではないでしょうか。そのような視点から改めて事象を捉え直すことが、複雑な災害現象を解明するブレークスルーを生み出す契機になるかもしれません。

今回の基礎水理シンポジウムでは、流体物理学から水理学に渡る様々な学問分野でシャープに切り込んだ乱流研究を精力的に行われている6名の講師をお迎えし、最新の研究成果について解説いただきます。土木分野以外の方々の講演が過半数を占めており、乱流の新しい世界を知る格好の機会となるに違いありません。この度の基礎水理シンポジウムが、皆様の好奇心を刺激し、研究の視野を拡げ、また現在取り組まれている課題に対して新たな視点をもたらす好機になることを確信しております。

参加者数 : 37名

大学関係者 : 26名, 企業（コンサル, 電力等）: 10名, 官公庁 : 0名, 不明 : 1名

#### 4. WG 活動

##### 4. 1 流砂・河床変動若手の会

###### 第2回 流砂・河床変動若手勉強会

趣旨：流砂・河床変動に関する既往の研究成果や今後の課題を若手研究者の中で共有することを目的に年に2回程度勉強会を行っています。

日時：平成29年11月20, 21日

場所：静岡大学浜松キャンパス

テーマ：砂州

参加人数：26名

次回勉強会：平成30年7月に北海道で予定しています。テーマは流木です。

ホームページを作成しました。

<http://sediment.stars.ne.jp/blog/>

##### 4. 2 植生水理関係

ISE2018の投稿〆切は3/16に延長された（水工学ML、IAHR日本支部MLで配信済み）。

詳しくは、<http://ise2018.com/>

豊富なスペシャルセッションSSが準備されている。水工学の各部会で提案していただいたSSも豊富にある。特にSS42は基礎水理部会で、境界層乱流と生物の関係に関するセッションとなっている。

Special Session 42
<b>Title:</b> Ecohydraulics in turbulence boundary layer and roughness layer of gravel bed and aquatic vegetation
<b>Organizers:</b> Dr. Tanaka, N. (Saitama University, Japan), Dr. Uchida, T. (Hiroshima University, Japan), Dr. Sanjou, M. (Kyoto University, Japan), Dr. Harada, M. (Gifu University, Japan)
<b>Synopsis:</b> Dynamics in turbulence boundary layer and roughness layer of gravel bed and aquatic vegetation have attracted not only hydraulic researchers to evaluate momentum exchange with flow turbulence and sediment transport, but also ecological researchers to assess the benthic habitat and periphyton distribution in rivers. Recent advancements in numerical simulation and measurement techniques make it possible to evaluate micro-scale hydraulics induced in these layers, which is expected to contribute to the ecologic research fields. For example, bottom velocity distribution induced by vortex around boulders and clusters entrain sediment and vegetation transported from upstream, producing evacuation spot for benthic insects. Turbulent motion such as sweep and ejection produced on these layers has an important role on the transportation of dissolved oxygen from water surface to the benthic habitat near the bed. This special session invites papers with findings in turbulence boundary layer and roughness layer of gravel bed and aquatic ecosystem both from hydraulic and ecological points of view to develop ecohydraulics near the bed in rivers.
<b>Keywords:</b> Boundary layer, roughness layer, turbulence, benthic habitat, invertebrate, periphyton, demersal fish, vegetation, gravel bed river, sediment transport
<b>Topics of interest:</b>
✓ How can we bridge between fluid motion, vegetation dynamic and benthic habitat?
✓ What can the ecologic and hydraulics in boundary layer do for ecohydraulics?

まだ間に合いますので、ご投稿のほどよろしく願いいたします

##### 4. 3 iRIC 研究会

○2017年9月～2018年3月までの活動報告

- ① 2017年10月17～20日 iRIC 講習会 in ボゴタ, コロンビア, 参加者 31名
- ② 2017年11月2日 iRIC 講習会 in 宮古島, 参加者 12名
- ③ 2017年11月16日 iRIC10周年記念イベント, 参加者 223名

- ④ 2017年11月29日 iRIC 講習会（北海道開発局向け）第1回，参加者27名
- ⑤ 2017年12月20日 国連大学でiRICの紹介，参加者8名
- ⑥ 2018年1月9～11日 iRIC 講習会 in サクラメント，アメリカ，参加者16名
- ⑦ 2018年1月24日 iRIC 講習会（北海道開発局向け）第2回，参加者26名
- ⑧ 2018年1月24～26日 iRIC 講習会 in フォートコリンズ，アメリカ，参加者17名
- ⑨ 2018年2月16日 iRIC 講習会 in 富山，参加者30名
- ⑩ 2018年3月20日 iRIC 講習会（北海道開発局向け）第3回，参加者26名（予定）



○2018年4月以降の予定

① iRIC ver 3.0 リリース会

主催：基礎水理部会 iRIC 研究会，日時：2018年6月5日，場所：土木学会

② iRIC 講習会 in 仙台

主催：基礎水理部会 iRIC 研究会，日時：2018年6月20日～22日，場所：東北大学

#### 4. 4 河川構造物等に作用する流体力に関する研究小委員会

名城大学新井宗之先生のお世話で、平成29年11月23-24日に長野県駒ヶ根市で研究会を行い、そして天竜川上流河川事務所のご協力により現地見学会を行った。

11月23日(木)に駒ヶ根市に集まり午後研究会を行い、その後懇親会を行った。翌24日(金)は、国土交通省中部地方整備局天竜川上流河川事務所のご協力により、天竜川上流の鷲龍狭(がりゅうきょう)の改修計画現場、天竜川支川の三峰川(みぶがわ)の美和ダムのダム排砂の水理構造物の見学を行った。

i) 研究会

参加者：田中規夫、福井吉孝、青木宗之、林建二郎、新井宗之、三輪浩、渡辺政広、羽田野袈裟義  
発表者とテーマ（敬称略）

田中規夫：多重防御構造による流体力の低減について

青木宗之：円柱群のある流れ

林建二郎：開水路中に置かれた柱体に作用する流体力とエネルギー損失および利得（発電）  
特性について

新井宗之：間歇性土石流サージについて

三輪 浩：礫河床への覆砂による礫の移動と流路変動

羽田野袈裟義：洗掘防止方法

ii) 見学会

① 天竜川上流河川事務所

- ② 三峰川（みぶがわ）のダム（美和ダム）のダム排砂水理構造物
- ③ 鷺流狭（がりゅうきょう） 治水工事計画現場

5. その他

- ・内規を作成中

以上

# 環境水理部会報告

部会長 矢島(島根大学)

研究集会(6月 or 7月) 道東地域開催

WG:閉鎖性水域研究WG(矢島):

温暖化適応WG(矢野):

動的総合土砂管理に関するWG(竹林):黒部視察(予)

樹林化WG(宮本・赤松):終了(上記WGに組入)

# H30年度研究集会(予定)

幹事 吉川(北見工大)

- 日時: 2018年  
案1: 7月5日(木)~ 7月6日(金)  
案2: 6月28日(木)~ 6月29日(金)
- 場所: 見学会 道東地域(網走川大曲堰他)  
発表会 案1 北見工業大学(駅から35分)  
発表会 案2 北見経済センター(駅から10分)
- 行程:
  - 1日目: 13:50~
    - 見学会
    - 特別講義
    - ナイトセッション
  - 2日目: 8:20~
    - 研究発表会(北見工大 or 経済センター)  
18件程度
- 詳細確定後、部会HP掲載予定。皆さまの参加歓迎!



# 閉鎖性水域WG

\*\*\*\*\*

ワーキンググループ名：閉鎖性水域WG

主査：島根大学 矢島

\*\*\*\*\*

**ミッション**：国内全体の閉鎖性水域に関する研究分野の活性化とレベルアップを図るとともに、国際的にも通用する湖沼生態系モデルの開発を行う。

**メンバー**：現在関連研究を行っている方だけでなく、これから閉鎖性水域の研究を行いたい人にも入っていただく(現時点での参加者は、部会メンバー7名+部会外メンバー11名の合計18名)。

**【WG】** 2017年11月6日 (参加者6名)

- ・事前にWG活動に関するアンケートを実施  
藻類に関わる水質障害、生態系モデルの構築、温暖化関連の関心が高い
- ・水質障害に関する共同レビューの話ができたが、分野横断範囲が広く断念
- ・ダムが河川水温に与える影響評価 ミニWG立ち上げ
- ・中堅および若手の先生を中心に共同観測企画ができないか検討依頼

# 「ダム貯水池の水環境に関する現状と将来」シンポジウム

応用生態工学会広島及び土木学会水工学委員会環境水理部会主催

**開催日時**: 2017年11月7日 13:30 – 17:30

**場所**: 島根県松江市(松江テルサ)

**主題**: ダム湖におけるアオコやカビ臭問題

**内容**: 行政1名・研究者3名・コンサルタント1名の話題提供と総合討論

**参加者数**: 120名以上

**まとめ**: ダム湖の水質問題は「産官学」の連携、また「学」の中でも学際的な取り組みが必要であり、多くの人の力を合の力を合わせて問題解決に取り組むことが重要



## 温暖化適応の環境水理学的視点からの探求WG

[適応WG]の活動報告: WG主査 矢野真一郎(九州大学)

【メンバー】宮本(芝工大)・矢島(鳥取大)・田代(名大)・赤松(山口大)・梅田(東北大)・工藤(いであ)・櫻井(土研)・鈴木(八千代)・鶴田(土研)・中山(神戸大)・矢野(九大)・湯浅(パソコン)・井芹(西技)・石塚(香川大)・新谷(首都大); [部会外メンバー]白水(山口大)・上原(パソコン)・對馬(土研)・入江(阪大)・津田(ICHARM)・中西(土研)(計21名)

### 【第3回WG】

2017年5月31日(水) 15:00~17:00 土木学会西部支部会議室(福岡) 参加者:14名

- ・入江先生(大阪大)に適応研究事例(流域モデルの開発など)を報告いただいた。
- ・プロジェクト研究の推進について協議
  - 環境省推進費へWGで応募した。→不採択
- ・WGのアウトプットとして、水環境分野の適応策研究のレビュー論文をまとめる
  - 河川・湖沼(ダム湖含む)・沿岸(河口域含む)の3領域でとりまとめる。

### 【今後の予定】

- ・第5回WGを次年度前半に開催。
- ・年1~2回程度実施予定。
- ・グローバル適応小委員会などとの協働を図る。

# 動的総合土砂管理に関するWG

WG主査 竹林洋史(京都大学)

## 2017年度活動報告

- 天竜川見学

2018年1月16日 天竜川のアユ産卵床

2018年1月17日 天竜川河口部  
中田島砂丘など見学

- 植生WGと合流

2018年2月28日 植生WG元主査の宮本先生と打ち合わせ



## 2018年度活動計画

- 黒部川の排砂見学会（時期未定）
- 土砂動態管理と植生動態との関係について

# 水工学委員会小委員会 ISO/TC113 国内検討委員会報告

小委員長 堀田 哲夫

201803

## 1) TC113 開水路の流量観測の概要

ISO/TC113 は、「開水路における水位、流速、流量及び土砂輸送、降水、蒸発散、そして地下水の利用と挙動に関する水文観測の方法、手法、機器そして装置の標準化」を対象とする専門技術部会であり、5つのSC（小委員会）を持ち、現時点で約80の規格を取り扱っている。日本は前半の3つにPメンバー（議決権有）として参加。

② ISO/TC113（流量観測）	: 幹事国（インド）,	参加形態（Pメンバー）水工学委堀田
② SC1（面積流速法）	: 幹事国（インド）,	参加形態（Pメンバー）土研笛田
② SC2（観測装置）	: 幹事国（イギリス）,	参加形態（Pメンバー）土研石神
③ SC5（測定機器とデータ管理）	: 幹事国（アメリカ）,	参加形態（Pメンバー）Frics 中尾
④ SC6（浮遊砂、掃流砂）	: 幹事国（インド）,	参加形態（Oメンバー）寒地土研新目(案)
⑤ SC8（地下水）	: 幹事国（アメリカ）,	参加形態（Oメンバー）調整中

## 2) 2017年10月のインド会議に向けた活動等

インド会議に向けた準備会議を2017年7月6日に開催し、参画方針と取り組み体制等について協議した。

- ① 国内検討委員会委員構成と委嘱について
- ② ISO サイトへのメンバー登録と ISO 事務局等からのメールの窓口、国内への周知方法の確実化について
- ③ 次回インド国際会議に向けた TC113 および各 SC における個別案件の状況・課題等確認
- ④ インド派遣メンバーについて  
日本作成の2規格(テレメータ、薄刃堰関連)が2016年に国際規格として発行されたこと及び資金面も考慮し、2案件のコンビーナを務める、土研の萬矢・小関氏の2名に絞って参加し、極力その他情報の入手に努める。
- ⑤ 国際事務局から依頼されている SC6 の P メンバー入りに向け、作業を開始する。

### 3) India Nodia 会議スケジュールと主な結論(日本関連)

日程	会合	予定時間	備考
<b>Oct 08 2017</b> <b>(Sunday)</b>	Secretary's & Chair's meeting	14 : 30~17 : 30	
<b>Oct 09 2017</b> <b>(Monday)</b>	Opening Meeting-1 <sup>st</sup> Plenary Session Meeting of ISO/ TC 113/SC1& its WG	09 : 00~11 : 00 11 : 30~17 : 30	記念撮影 レセプション 19 : 00~21 : 00
<b>Oct 10 2017</b> <b>(Tuesday)</b>	Meeting of WGs Meeting of ISO/ TC 113/SC 8 * Meeting of ISO/ TC 113/SC 6	8 : 30~10 : 30 10 : 30 – 12 : 30: 13 : 30~17 : 30	
<b>Oct 11 2017</b> <b>(Wednesday)</b>	TECHNICAL TRIP (Tsurumi River)	8 : 30~17 : 30	TRIP to the Yamuna River Basin
<b>Oct 12 2017</b> <b>(Thursday)</b>	Meeting of ISO/ TC 113/SC 5 Meeting of ISO/ TC 113/SC 2	8 : 30~12 : 30 13 : 30~17 : 30	
<b>Oct 13 2017</b> <b>(Friday)</b>	Plenary meeting of ISO/ TC 113	8 : 30~12 : 30 13 : 30~17 : 30	

- ① WMO の流速観測機器のマニュアルの、ISO/TR としての活用を検討する。
- ② 日本がコンビーナを務める「非接触型流量観測法の活用」は 2018 年 4 月までに草案の修正を行う。
- ③ 同様の「ADP」は 2018 年 5 月までに草案の修正を行う。
- ④ 韓国から提案のあった雨量観測所網密度については韓国が草案を作成する。
- ⑤ 次回会議は、2019 年春頃中国で開催の予定。

#### 4) 今後の課題

- ① 予算措置の改善(経産省補助の打ち切り)
- ② メンバーの高齢化に対応した今後の体制の見直し
- ③ オブザーバーである SC6,8 の会議等への参加働きかけ

# 水害対策小委員会 2017年度の活動

- 2017年3月：2016年度第二回水害対策小委員会開催  
河川災害シンポジウムの実施(参加人数:283名) 過去最高  
 参考：2015年(東北大学) 250名  
 2014年(早稲田大学) 241名  
 配付資料に対して自然災害研究協議会から15万円の補助
- 2016年4月：2016年北海道豪雨災害調査の報告会を帯広で実施
- 2016年5月：2016年熊本地震災害調査の報告会を熊本で実施
- 2017年6月：2017年度第1回水害対策小委員会  
 新委員長：東北大学・風間聡先生  
 災害写真データベースシステムの構築など
- 2017年7月：2017年九州北部豪雨災害調査団の結成・活動のサポート



2016年河川災害に関するシンポジウム

- 2017年7月： 2017年秋田豪雨災害調査団の結成・活動のサポート  
 2017年9月： 2017年九州北部豪雨災害調査の報告会を九州大学で実施  
 2017年10月： 2017年九州北部豪雨災害調査のミニ報告会を沖縄で実施  
 2018年3月： 2017年度第二回小委員会  
 河川災害に関するシンポジウムの実施  
 総務省消防庁の浸水域救助技術マニュアルの改訂



九州北部豪雨災害調査の様子

## 2018年度の活動予定

- ・ 国内・海外の水害調査団結成のサポート
  - ・ 調査方法の統一化WG
  - ・ 消防連携WG
  - ・ 災害写真データベースシステムの構築
- 2018年4月： アメリカ合衆国サイクロン災害調査の実施  
 2018年6月： 2018年度第一回小委員会開催  
 2019年3月： 河川災害に関するシンポジウムの実施  
 2018年度第二回小委員会開催

# 流量観測技術高度化検討小委員会報告

## 2017年度 流量観測現地ワークショップの報告

日時:2017年4月26日(水)~29日(土)

場所:新潟県 信濃川 旭橋(最寄駅:JR上越線 小千谷駅)

主催者:土木学会・ICHARM

参加者 23組織,約80名

土木研究所水文チーム,河川情報センター,神戸大学,中央大学,富山県立大学,日本工営,東京建設コンサルタント,横河電子機器,福田水文センター,ニュージェック,ハイドロシステム開発,三井共同建設コンサルタント,いであ,水文環境,タイプエス,拓和,テイコク,岩崎,北斗測量,ケイプラス,エス・イー・エイ,ふたば,インフラレッド



# 2017年度 流量観測現地ワークショップ報告



## 第6回流量観測の高度化に関する勉強会報告

日時:2017年7月1日(土) 12:30~17:25

場所:神戸大学工学部 C3-302 教室

司会:萬矢敦啓(土木研究所)

参加者:46名

時間	題目	発表者
12:30-12:35	開会の挨拶	藤田一郎 (神戸大学)
12:35-12:40	信濃川合同観測の概要	小関博司 (土木研究所)
12:40-13:00	河川計測の意味	萬矢敦啓 (土木研究所)
13:00-13:20	近年の音響技術による河川計測 (仮)	橋田隆史 (ハイドロシステム開発)
13:20-13:40	未定	岩本演崇 (日本工営)
13:40-14:00	非接触計測と水理解析を融合したリアルタイム 水位・流量観測システムの構築	柏田 仁 (パシフィック・コンサルタンツ)
14:00-14:20	空知川における H28 洪水時の流量観測と流量値 の推定	橋場雅弘 (福田水文センター)
14:20-14:40	信濃川 UAV 動画に STVV を適用した河川表面流ベ クトルの画像計測	藤田一郎 (神戸大学)
14:40-15:00	流速画像解析における直接定位撮影の標定精度 に関する現地試験について	小林範之 (東京建設コンサルタント)
15:00-15:20	旭橋での UAV により計測結果の報告	西山典志 (福田水文センター)
15:20-15:40	赤外線サーモグラフィ搭載ドローンによる河川 観測	菊地 孝 (ケイプラス株式会社)
15:40-16:00	開発中の電波流速水位計の進捗状況	埴原 学 (横河電子機器株式会社)
16:00-16:20	ラジコンボートによる ADCP 観測結果と ADCP デー タを用いた iRIC 解析の検討	笹川幸寛 (ハイドロシステム開発)
16:20-16:40	Bottom track velocity を用いた掃流砂量と 掃流力の推定	小関博司 (土木研究所)
16:40-17:00	Deeper を用いた観測	岡田将治 (高知高等専門学校)
17:00-17:20	未定	椿 涼太 (名古屋大学)
17:20-17:25	閉会の挨拶	笛田俊治 (土木研究所)

## 2018年度 流量観測現地ワークショップのご案内

日時:2018年4月18日(水)～21日(土)

場所:新潟県 信濃川 旭橋(最寄駅:JR上越線 小千谷駅)

主催者:土木学会・ICHARM

本ワークショップは流量観測に取り組んでおられる方々に各自の技術を持ち寄って頂き、同一時間・同一場所において一斉に観測を行い、比較等できるようにすることを目的としています。

比較用のデータとして、土木研究所のADCP観測データを提供致します。

日程の詳細は以下の通り

4月18日(水):観測準備(評定点設置等)

4月19日(木):予備観測

4月20日(金):本観測,懇親会

4月21日(土)(午前のみ):本観測

問い合わせ先

小関博司(研究員)

〒305-8516 茨城県つくば市南原1-6 国立研究開発法人 土木研究所

水工研究グループ 水文チーム

tel 029-879-6781(Micro 10-4439), fax 029-879-6737, E-mail:h-koseki@pwri.go.jp

# グローバル気候変動 適応研究推進小委員会

委員長 矢野真一郎(九州大学)

# H29年度(後半)活動報告

1. 第3回小委員会:H29/9/6 福岡にて(参加者16名)
  - ・内規案の作成.
  - ・活動予定, アウトプットに関する議論などを行った.
2. 平成29年度全国大会:H29/9/11-13 福岡にて
  - ・共通セッション「CS5:気候変動による影響への適応」を主催:  
1セッション, 5件発表 → 宣伝不足. 次年度は増やす努力が必要.
  - ・研究討論会「水工学分野の気候変動適応研究において  
社会実装の促進に何が必要か?」を実施:  
中北(オーガナイザー)・矢野(進行).
3. 水シンポジウムイベント開催:H29.10/30 沖縄にて
  - ・九州北部豪雨のミニ報告会を開催. 100名程度の参加者.
4. 第2回幹事会(メール審議)
  - ・全国大会での研究討論会の提案内容について議論した.
5. 第3回小委員会:H30/3/7 岡山にて開催予定

# H30年度の活動計画

1. 平成30年全国大会(北海道大学):
  - ・共通セッション「気候変動による影響への適応」
  - ・研究討論会「気候変動適応に関する先進事例から学ぶ水工学分野の課題(仮題)」→内容精査中
2. 小委員会のアウトプットとして、適応策研究レビューを水資源・河川災害・環境水理の分野でそれぞれ行う。
3. 水シンポ(静岡)のイベント？

## 補足資料：H29年度グローバル気候変動適応研究推進小委員会メンバー(3.5現在：34名)

職区分名	氏名	勤務先	部会・専門
委員長(環境水理部会副会長)	矢野 真一郎	九州大学	環境水理
幹事長	小林健一郎	神戸大学	水文
委員兼幹事(前水工学委員長)	中北 英一	京都大学 防災研究所	水文
委員兼幹事(前水工学委員会幹事長)	中山 恵介	神戸大学	環境水理
委員兼幹事(前基礎水理部会会長)	里深好文	立命館大学	基礎水理
委員兼幹事(河川部会会長)	戸田 祐嗣	名古屋大学	河川
委員兼幹事(河川部会副会長)	田村浩敏	建設技術研究所	河川
委員兼幹事(前環境水理部会長)	宮本 仁志	芝浦工業大学	環境水理
委員兼幹事(環境水理部会会長)	矢島 啓	島根大学	環境水理
委員兼幹事	赤松良久	山口大学	環境水理(河川)
委員兼幹事	佐山敬洋	京都大学	水文(河川)
委員兼幹事	椿涼太	名古屋大学	河川
委員兼幹事	音田慎一郎	京都大学	基礎水理
委員	丸谷靖幸	岐阜大学	水文
委員	田中智大	京都大学	水文
委員	中津川誠	室蘭工業大学	水文
委員	多田毅	防衛大学校	水文
委員	渡部哲史	東京大学	水文
委員	溝口敦子	名城大学	河川
委員	山田朋人	北海道大学	水文
委員	森啓年	山口大学	河川堤防
委員	入江政安	大阪大学	沿岸環境
委員	東博紀	国立環境研究所	沿岸域
委員	井上卓也	寒地土木研究所	基礎水理
委員	内田龍彦	広島大学	基礎水理
委員	花崎直太	国立環境研究所	水文
委員	猪俣広典	土研ICHARM	水文
委員	森信人	京都大学防災研究所	海岸工学
委員	山城賢	九州大学	海岸工学
委員	笠間清伸	九州大学	地盤工学
委員	石蔵良平	九州大学	地盤工学
委員	多々納裕一	京都大学防災研究所	土木計画学
委員	藤見俊夫	熊本大学	土木計画学
委員	神谷大介	琉球大学	土木計画学

I. 示方書、指針等（含む公式集）

No.	担当委員会	書名	編集主査	事務局担当者	年度当初の発行予定日	事務局への原稿提出 (上段:予定日/下段:提出日)	校了 (上段:予定日/下段:校了日)	刊行 (上段:予定日/下段:刊行日)	完全版下	現在の状況	最終結果	現況評価	上段: 初版発行部数 下段: 定価/会員特価	備考 (当初の発行予定日)
※01	水工学委員会	水理公式集 [平成29年版]	辻本哲郎 (名古屋大学)	松沼	平成29年12月	平成29年6月1日 平成29年10月3日	平成30年3月31日	平成30年5月31日		各編順次初校校正中 12月15日遅延申請		C	3,000	(平成28年3月)
02	コンクリート委員会	2017年制定 コンクリート標準示方書 設計編	宮川豊章 (京都大学)	小川	平成30年3月	平成29年12月1日 平成30年1月9日	平成30年2月14日	平成30年3月21日	○	最終校正中		B	10,000	
03	コンクリート委員会	2017年制定 コンクリート標準示方書 施工編	宮川豊章 (京都大学)	小川	平成30年3月	平成29年12月1日 平成30年1月9日	平成30年2月14日	平成30年3月21日	○	最終校正中		B	15,000	
04	コンクリート委員会	2017年制定 コンクリート標準示方書 規準編	久田 真 (東北大学)	小川	平成30年3月	平成30年7月31日		平成30年10月1日	○	10月27日遅延申請		C	5,000	
05	鋼構造委員会	2017年制定 鋼・合成構造標準示方書 耐震設計編	後藤芳顕 (名古屋工業大学)	尾崎	平成30年3月	平成30年11月30日		平成31年2月28日	○	1月10日遅延申請		C	3,000	

II. 教科書、副教材

No.	担当委員会	書名	編集主査	事務局担当者	年度当初の発行予定日	事務局への原稿提出 (上段:予定日/下段:提出日)	校了 (上段:予定日/下段:校了日)	刊行 (上段:予定日/下段:刊行日)	完全版下	現在の状況	最終結果	現況評価	上段: 初版発行部数 下段: 定価/会員特価	備考 (当初の発行予定日)
06	土木情報学委員会	土木情報学-基礎編-	蒔苗耕司 (宮城大学)	小川	平成29年5月	平成29年4月17日 平成29年5月16日	平成29年6月12日 平成29年6月13日	平成29年6月30日 平成29年6月30日	○		1ヶ月遅れ	B	1,000 1,836円/1,660円	

III. ライブラリー

No.	担当委員会	書名	編集主査	事務局担当者	年度当初の発行予定日	事務局への原稿提出 (上段:予定日/下段:提出日)	校了 (上段:予定日/下段:校了日)	刊行 (上段:予定日/下段:刊行日)	完全版下	現在の状況	最終結果	現況評価	上段: 初版発行部数 下段: 定価/会員特価	備考 (当初の発行予定日)
07	コンクリート委員会	CL 2017年制定コンクリート標準示方書 [設計編]「施工編」改訂資料	宮川豊章 (京都大学)	小川	平成30年3月	平成29年12月1日 平成30年1月19日	平成30年2月21日	平成30年3月21日	○	最終校正中		B	5,000 3,672円/3,310円	
※08	舗装工学委員会	PL16 コンクリート舗装の設計・施工・維持管理の最前線	西澤辰男 (石川工業高等専門学校)	杉岡	平成29年8月	平成29年5月31日 平成29年5月29日	平成29年8月21日 平成29年8月30日	平成29年9月20日 平成29年9月20日	○		1ヶ月遅れ	B	600 4,212円/3,800円	(平成28年8月) 講習会開催: 1月25日(東京) 60名参加・2月16日(広島) 33名参加/2月28日(大阪)・3月12日(札幌)開催予定

IV. 委員会からの単発図書

No.	担当委員会	書名	編集主査	事務局担当者	年度当初の発行予定日	事務局への原稿提出 (上段:予定日/下段:提出日)	校了 (上段:予定日/下段:校了日)	刊行 (上段:予定日/下段:刊行日)	完全版下	現在の状況	最終結果	現況評価	上段: 初版発行部数 下段: 定価/会員特価	備考 (当初の発行予定日)
※09	土木広報センター	歴史に学ぶ日本の国土づくり	依田照彦 (早稲田大学)	山本佐藤	平成29年12月	平成29年9月1日			○	H29年3月23日企画取下げ申請				(平成29年3月)
10	土木広報センター	土木偉人かたる	緒方英樹 (全国建設研修センター)	山本佐藤	平成30年2月	平成29年11月1日 平成30年1月24日	平成30年2月1日 平成30年2月8日	平成30年2月28日	○	印刷・製作中		B	2,000 1,836円/1,660円	
11	エネルギー委員会	再生可能エネルギー開発 ~最新事情と海外展開~	清水隆夫 (一)	尾崎	平成30年3月	平成29年11月1日 平成29年12月1日	平成30年1月31日 平成30年1月31日	平成29年2月9日 平成30年2月9日	○		1ヶ月前倒し	A	1,000 1,296円/1,170円	変更 / 初版印刷
12	建設マネジメント委員会	公共デザインへの競争性導入に関する実施ガイドライン	久保田善明 (富山大学)	杉岡	平成29年4月	平成30年4月30日		平成30年8月1日	○	1月9日遅延申請		C	1,000	
13	継続教育実施委員会	土木技術者倫理問題 - 考え方と事例解説 II - 改訂版	竹村次郎 (東京工業大学)	中島	平成29年7月	平成29年9月30日 平成29年9月29日	平成29年12月6日 平成29年11月14日	平成29年12月15日 平成29年12月1日	○		5ヶ月遅れ	B	1,500 1,620円/1,460円	
14	地震工学委員会	2016年熊本地震被害調査報告書	池田隆明 (長岡技術科学大学)	小川	平成29年9月	平成29年8月17日	平成29年9月6日	平成29年12月15日	○		3ヵ月遅れ	B	500 7,236円/6,520円	

V. 委員会からのシリーズ図書

No.	担当委員会	書名	編集主査	事務局担当者	年度当初の発行予定日	事務局への原稿提出 (上段:予定日/下段:提出日)	校了 (上段:予定日/下段:校了日)	刊行 (上段:予定日/下段:刊行日)	完全版下	現在の状況	最終結果	現況評価	上段: 初版発行部数 下段: 定価/会員特価		備考 (当初の発行予定日)
15	構造工学委員会	構造工学シリーズ27 爆発・衝撃作用を受ける土木構造物の安全性評価－希少事象に備える－	藤掛一典 (防衛大学校)	橋本	平成29年6月	平成29年4月26日	平成29年8月31日	平成29年9月25日	○	3ヵ月遅れ	B	600	6,480円/5,840円	講習会開催:9月27日(東京)79名参加・10月25日(金沢)25名参加・11月22日(札幌)38名参加/2月1日(福岡)開催予定	
						平成29年4月26日	平成29年9月4日	平成29年9月25日							
16	鋼構造委員会	鋼構造シリーズ 鋼構造物の長寿命化技術	高木千太郎 (首都高技術センター)	尾崎	平成29年5月	12月末か1月初め	平成30年3月8日	平成30年3月31日	○	初校校正中	B	1,000			
						平成30年1月16日									
17	鋼構造委員会	鋼構造シリーズ 鋼構造物の防食性能回復における課題と対策	貝沼重信 (九州大学)	尾崎	平成30年3月	平成30年3月2日		平成30年6月1日	○	12月18日遅延申請	C	600			
18	複合構造委員会	複合構造シリーズ08 基礎からわかる複合構造－理論と設計－(2017年版)	大山 理 (大阪工業大学)	杉岡	平成29年6月	平成29年8月中旬		平成29年11月30日	○	6ヵ月遅れ	B	600	2,700円/2,430円		
						平成29年8月22日	平成29年11月29日	平成29年12月15日							
19	複合構造委員会	複合構造レポート13 構造物の更新・改築技術－プロセスの紐解き－	葛西 昭 (熊本大学)	杉岡	平成29年7月	平成29年4月21日	平成29年7月7日	平成29年7月18日	○	予定通り	A	500	3,780円/3,410円	7月21日(東京)講習会開催(71名参加)	
						平成29年5月10日	平成29年6月30日	平成29年7月18日							
20	複合構造委員会	複合構造レポート14 複合構造物の耐荷メカニズム－多様性の創造－	齊藤成彦 (山梨大学)	杉岡	平成29年12月	平成29年9月30日		平成29年12月15日	○	予定通り	A	500	3,780円/3,410円	12月21日(東京)講習会開催(55名参加)	
						平成29年9月19日	平成29年11月21日	平成29年12月15日							

VI. 和文定期刊行物

No.	担当委員会	書名	編集主査	事務局担当者	年度当初の発行予定日	事務局への原稿提出 (上段:予定日/下段:提出日)	校了 (上段:予定日/下段:校了日)	刊行 (上段:予定日/下段:刊行日)	完全版下	現在の状況	最終結果	現況評価	上段: 初版発行部数 下段: 定価/会員特価		備考 (当初の発行予定日)
21	出版委員会	2017年版 全国土木系教員名簿		小野寺	平成29年8月	平成29年7月7日	平成29年7月31日	平成29年9月1日	○	1ヶ月遅れ	B	700	2,160円/1,950円		
						平成29年7月20日	平成29年8月4日	平成29年9月5日							

VII. 記念出版等⇒該当なし

No.	担当委員会	書名	編集主査	事務局担当者	年度当初の発行予定日	事務局への原稿提出 (上段:予定日/下段:提出日)	校了 (上段:予定日/下段:校了日)	刊行 (上段:予定日/下段:刊行日)	完全版下	現在の状況	最終結果	現況評価	上段: 初版発行部数 下段: 定価/会員特価		備考 (当初の発行予定日)

東日本大震災合同調査報告

No.	担当委員会	書名	編集主査	事務局担当者	年度当初の発行予定日	事務局への原稿提出 (上段:予定日/下段:提出日)	校了 (上段:予定日/下段:校了日)	刊行 (上段:予定日/下段:刊行日)	完全版下	現在の状況	最終結果	現況評価	上段: 初版発行部数 下段: 定価/会員特価		備考 (当初の発行予定日)
※22	東日本大震災調査報告書編纂委員会	土木編4 交通施設の被害と復旧	阪田憲次	小野寺	平成29年度中	平成30年1月12日 平成30年2月1日	平成30年3月9日	平成30年3月30日	○	初校校正中		B	1,000 6,480円/5,840円	(平成27年12月)	
※23	東日本大震災調査報告書編纂委員会	土木編7 社会経済的影響の分析	阪田憲次	小野寺	平成30年度中	平成30年3月		平成30年度夏頃	○	原稿編集作業中		C	1,000	(平成28年3月)	
※24	東日本大震災調査報告書編纂委員会	土木編8 復興	阪田憲次	小野寺	平成30年度中				○	各地の復興は今が最終期であり、自治体や土木学会等の活動が盛況となっている現状を踏まえ、現在70頁程度で準備を進めています。したがって、2017年度中の発行は難しいと考えています。		C	1,000	(平成28年3月)	

委託出版物

No.	担当委員会	書名	編集主査	事務局担当者	年度当初の発行予定日	事務局への原稿提出 (上段:予定日/下段:提出日)	校了 (上段:予定日/下段:校了日)	刊行 (上段:予定日/下段:刊行日)	完全版下	現在の状況	最終結果	現況評価	上段: 初版発行部数 下段: 定価/会員特価		備考 (当初の発行予定日)
25	構造工学委員会	橋 Bridges in Japan 2016 (オフィス・スペース発行)	中藤誠二 (関東学院大学)	橋本	平成29年8月							A	定価5,400円		
※26	環境システム委員会	環境システム学のすすめ (共立出版)	藤原健史 (岡山大学)					28年度当初確認した際は「発行目標:平成28年度中」		28年度当初確認した際は「全体の進捗率としては7割程度」				(平成19年5月)	
※27	土木史研究委員会	図録 近代土木史 (鹿島出版会)	北河大次郎 (文化庁)					「発行目標:平成29年12月末」		鹿島出版会とスケジュールを確認し、最終調整中とのこと		B		(平成21年9月)	

仕掛品 (平成30年4月以降の発行図書)

No.	担当委員会	書名	編集主査	事務局担当者	年度当初の発行予定日	事務局への原稿提出 (上段:予定日/下段:提出日)	校了 (上段:予定日/下段:校了日)	刊行 (上段:予定日/下段:刊行日)	完全版下	現在の状況	最終結果	現況評価	上段: 初版発行部数 下段: 定価/会員特価		備考 (当初の発行予定日)
28	コンクリート委員会	2017年制定 コンクリート標準示方書 維持管理編	宮川豊章 (京都大学)	小川	平成30年度				○				10,000		
★29	コンクリート委員会	CL 混和材を大量使用したコンクリート構造物の設計・施工指針 (案)	石田哲也 (東京大学)	小川	平成30年6月	平成30年3月31日			○				500	発行年度を当初29年度⇒30年度に変更	
★30	コンクリート委員会	CL 高炉スラグ微粉末を用いたコンクリートの施工指針	坂井悦郎 (東京工業大学)	小川	平成30年6月	平成30年3月31日			○				500	発行年度を当初29年度⇒30年度に変更	
31	コンクリート委員会	CL セメント系材料を用いたコンクリート構造物の補修補強指針 (案)	上田多門 (北海道大学)	小川	平成30年4月	平成30年1月31日			○				1,000		
32	コンクリート委員会	CL 亜鉛めっき鉄筋を用いたコンクリート構造物の設計・施工指針 (案)	武若耕司 (鹿児島大学)	小川	平成30年6月				○				500		

# 減災・防災委員会

委員：風間聡(東北大学)

減災社会システム構築小委員会

委員：風間聡(東北大学)

緊急対応マネジメント小委員会

委員：赤松良久(山口大学)

2018年1月25日 減災社会システム構築小委員会

各支部の活動報告

北海道支部：雪害の対策

西部支部：情報アーカイブの設置

中部支部：歴史的教訓の収集

中国支部：防災教育

次回4月に防災教育に主眼をおいて議論を行う。

2018年2月16日 緊急対応マネジメント小委員会

各委員会の災害調査派遣に際して(ガイドラインなど)

支部規程について

2018年3月7日 減災・防災委員会

(水講期間中)

# 平成29年度第2回海岸工学委員会報告

資料3-10

10月25日18:00～20:15TKP札幌駅カンファレンスセンター

## ■ 議事録確認

## ■ 海岸工学論文集第64巻発刊状況 (第64回海岸工学講演会)

投稿数362件 講演集286件  
企画sessionテーマ：流砂系の総合的な土砂管理と海岸保全

## ■ 第53・54回水工学に関する夏期 研修会（Bコース）について

次年度54回の会場は山口県。主担当は水工学委員会。海岸工学委員会からは愛媛大学日向先生が担当。

## ■ Coastal Engineering Journal について

Impact Factor 2016 : 0.887 (昨年0.703 から26%上昇)

現在, Special Issue on "SPH for Coastal and Ocean Engineering"を募集中。

Special Issue on "Climate Impact on Coastal Engineering"には7編が採択された。

## ■ 研究小委員会等の活動について

広報小委員会, 沿岸域小委員会, 地域研究小委員会, 波動モデル小委員会, 減災アセスメント小委員会, 地盤材料小委員会, 気候変動小委員会

土木学会 海岸工学委員会

沿岸域の気候変動影響評価・適応検討に関する小委員会（通称：気候変動小委員会）

2018年2月22日 14時30分～@土木学会

(A. 話題提供・ディスカッション・その他) (順番は、適宜、変更します)

- 1) 委嘱状について
- 2) 2017年10月26日 ランチミーティングメモ（海岸工学講演会，札幌）の確認
- 3) 出席者・自己紹介（研究分野，委員会活動にあたって，その他）
- 4) FORA, SI-CAT 海洋流動プロダクトの紹介（石川・JAMSTEC）
- 5) 国土交通省の動向紹介（加藤・国総研）
- 6) 農林水産省の動向紹介（桐・農研機構）
- 7) 水工学委員会の活動紹介（小林・神戸大学）
- 8) 活動の方向性・目標（アウトプットは？） → ランチミーティングメモ 6.(1) - (3)
  - 地球温暖化適応策検討小委員会（2007 - 2008年）の活動紹介 【トップダウンの活動】
  - フリーディスカッション：6.(1) - (3) + その他の観点 【ボトムアップの活動】
- 9) その他（旅費支援，次回会合：1 or 2回 + 鳥取・海岸工学講演会，その他）

(B. 紹介)

- 1) 気候変動の観測・予測及び影響評価統合レポート2018 ～日本の気候変動とその影響～
- 2) 気候変動の影響への適応計画の試行的なフォローアップ報告書
- 3) 京都大学防災研究所共同研究応募（2018年1月）

(C. 資料)

- 1) メンバーリスト .....2
- 2) 2017年10月26日 会合メモ（海岸工学講演会ランチミーティング，札幌） .....3
- 3) 大型プロジェクトの研究成果の普及（提案）（森） .....4
- 4) Top 10 questions（素案）（桑江） .....5
- 5) 京都大学防災研究所共同研究応募（2018年1月） .....8
- 6) 地球温暖化適応策検討小委員会（2007 - 2008年）の活動紹介 .....12
- 7) 気候変動の観測・予測及び影響評価統合レポート2018 ～日本の気候変動とその影響～（パンフレット）：環境省・文部科学省・農林水産省・国土交通省・気象庁（2018年2月） .....19
- 8) 気候変動の観測・予測及び影響評価統合レポート2018 ～日本の気候変動とその影響～：環境省・文部科学省・農林水産省・国土交通省・気象庁（2018年2月） .....27
- 9) 気候変動の影響への適応計画の試行的なフォローアップ報告書：気候変動の影響への適応に関する関係府省庁連絡会議（平成29年10月11日） .....164

メンバーリスト

2018/02/22

1	武若聡	筑波大学	○	懇
2	森信人	京都大学	—	
3	有川太郎	中央大学	○	
4	石川洋一	海洋研究開発機構(JAMSTEC)	○	懇
5	鶴崎賢一	群馬大学	○	懇
6	加藤史訓	国土技術政策総合研究所	○	
7	桐博英	農業・食品産業技術総合研究機構 農村工学研究部門	○	
8	久保田真一	不動テトラ	○	懇
9	桑江朝比呂	港湾空港技術研究所	○	懇
10	小林健一郎	神戸大学(土木学会水工学委員会)	○	
11	篠原瑞生	東京海上日動リスクコンサルティング	—	
12	清野聡子	九州大学	○	懇
13	武田将英	東亜建設工業	○	懇
14	辻尾大樹	パンフィックコンサルタンツ	○	
15	中村亮太	豊橋技術科学大学	○	懇
16	中村文則	長岡技術科学大学	—	
17	二宮順一	金沢大学	○	懇
18	羽角華奈子	大成建設	○	
19	伴野雅之	港湾空港技術研究所	—	
20	古市尚基	水産工学研究所	○	懇
21	安田誠宏	関西大学	○	
22	李漢洙	広島大学	○	
23	渋谷容子*	東洋建設	○	懇

\*オブザーバ

**オーガナイザー：**

氏名：矢野真一郎

住所：九州大学大学院工学研究院環境社会部門

〒819-0395 福岡市西区元岡 744 (ウエスト 2 号館 1033 号室)

電話番号：092(802)3414

E-mail：yano@civil.kyushu-u.ac.jp

**連絡担当者（実務代理）**

氏名：小林健一郎

住所：神戸大学都市安全研究センター

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1

電話番号：079(803)6260

E-mail：kkobayashi@phoenix.kobe-u.ac.jp

**セッションのタイトル：気候変動による影響への適応**

**Adaptation to the impact due to climate change**

**主 題：**気候変動の影響は近年の豪雨や台風などによる災害の増加により顕著化しており防災対策の必要性は疑う余地がないばかりでなく、利水や環境といった側面でも気候変動への適応が急務となっている。昨年引き続き本セッションは、気候変動をキーワードに、水圏における治水、利水、環境を中心に、我が国の土木分野全体に関連する様々な視点から取り組む影響評価や適応策研究について幅広く議論し、より横断的な研究の推進、連携の活性化、新たなテーマの発掘を目指す。

The impact of climate change has been revealed to cause damage not only to human society but also to ecological system. In the session, the influence of climate change on global change in environment is discussed extensively from a viewpoint of disaster prevention and sustainability of ecological system. The aims are to enhance multidisciplinary studies and to develop a new adaptation technique to the impact due to climate change.

予想される複数の応募部門：第 2 部門、第 4 部門、第 7 部門

## 第8回アジア土木技術国際会議(CECAR8)

アジア土木技術国際会議(CECAR)は、ACECCの定款に定められた主要活動の一つであり、3年に一度、アジアの産官学の研究者、技術者らが一堂に会する会議。

開催期日:2019年4月16日(火)～4月19日(金)

会場:ホテルメトロポリタン東京池袋(Hotel Metropolitan Ikebukuro)

水工学委員会からの提案セッション

“Recent water-related natural disasters in Asian region”

セッションオーガナイザー 田中 仁 (東北大学)

投稿は7編

ラオス1, タイ1, ベトナム2, フィジー1, 日本(九州豪雨, 北海道豪雨)

## 水工学委員会の年間予定

月日	会議開催	主な議題	行事など
5月			・水工学講演会投稿締切り
6月	第1回編集小委員会幹事会 (6月6日) 第1回水工学委員会 (6月7日10時から開催) 第1回編集小委員会 (6月7日13時から開催).	・応募論文の分類整理 ・査読者の選定と査読依頼 ・新年度活動計画の検討 ・水工学論文賞、論文奨励賞の内定 ・その他	・河川技術に関するシンポジウム ・第2回水シンポジウム実行委員会、第4回企画部会 ・土木学会総会
7月	第2回編集小委員会(メール審議)	・査読結果の確認 ・査読結果通知、修正依頼	・水工学論文修正依頼
8月	第3回編集小委員会(メール審議) 第2回編集小委員会幹事会	・登載論文の決定	・水工学論文最終原稿提出 ・水シンポジウム ・水工学に関する夏期研修会
9月			・全国大会
10月			・水工学論文集発刊 ・次年度水シンポ第1回実行委員会、第1回企画部会
11月	第2回水工学委員会	・活動報告 ・次年度活動計画の検討 ・その他	・水工学講演会 ・河川災害シンポジウム ・アゲールシンポジウム ・水シンポ予算申請(河川財団)
12月			
1月			・水シンポ予算申請(防災研究協会)
2月			・水シンポ第2回企画部会
3月			

# 平成30年度 第63回水工学講演会 開催計画

- 日程：2019年11月25日(日)～27日(火)の3日間
- 場所：北海道大学札幌キャンパス学術交流会館  
(〒060 - 0808 札幌市北区北8条西5丁目)

<https://www.hokudai.ac.jp/bureau/property/s01/>

- 幹事：清水康行(北大)・泉典洋(北大)・山田朋人(北大)

2018年<sup>47</sup>2月22日

# 交通アクセス

## 北大最寄りの駅からのご案内

### JR線をご利用の場合

札幌駅北口から構内まで ..... (徒歩約7分)

### 地下鉄南北線をご利用の場合

北12条駅から構内まで ..... (徒歩約4分)

北18条駅から構内まで ..... (徒歩約7分)

さっぽろ駅から構内まで ..... (徒歩約10分)

### 地下鉄東豊線をご利用の場合

北13条東駅から構内まで ..... (徒歩約15分)

さっぽろ駅から構内まで ..... (徒歩約10分)

### 中央バス・JR北海道バスをご利用の場合

北大正門前

北大病院前

北18西5

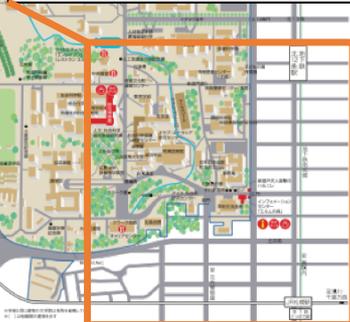
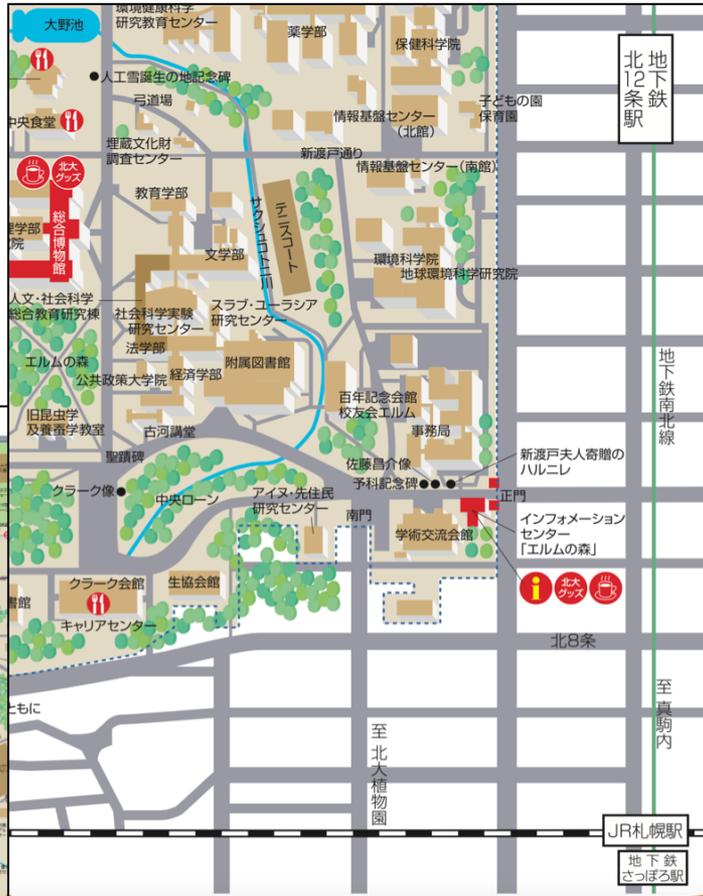
### 新千歳空港から札幌駅までのアクセス

#### JR線

快速エアポート ..... 約40分

#### バス(中央・北都交通)

札幌都心行 ..... 約1時間10分



【交通案内】  
 JR札幌駅北口から徒歩約7分  
 地下鉄南北線北12条駅から徒歩約4分  
 地下鉄南北線北18条駅から徒歩約7分  
 地下鉄東豊線北13条東駅から徒歩約15分  
 さっぽろ駅から徒歩約10分  
 中央バス・JR北海道バス  
 北大正門前  
 北大病院前  
 北18西5

# 講演会場

- **第1会場(開会式, 特別公演, アゲール, 河川シンポ等) :**  
学術交流会館大講堂(306席)
- **第2~6会場 :**  
**第2 :** 学術交流会館小講堂(194席), **第3 :** 第1会議室(150席),  
**第4 :** 第3会議室(50席), **第5 :** 第4会議室(50席),  
\*第4, 5会場は椅子を20-30は追加で利用できる予定(椅子は学術交流会館にあり)  
**第6 :** クラーク会館大ホール(90席)
- **総合受付 :** 学術交流会館1階ロビー
- **委員会用会場, 事務局用 :**  
学術交流会館第2会議室(24席), 第6会議室(12席)  
生協会館会議室, 百年記念会館会議室 \*これらは大会2, 3日目のみ使用可能
- **展示 :** 学術交流会館1階ロビー
- **予備室(展示物などの保管) :** 第5会議室(10席)  
\*大会初日(日曜日)は大学の他の部屋を借りることができない. そのため, 昼に実施される各種委員会の多くは2日, 3日目に開催頂きたい.  
\*展示物などの保管を別の部屋で可能であれば第5会議室に椅子を多く持ち込めば、規模によって委員会で使用可能(検討中).

\* 日時は岡山大会のスケジュール通りを記載

# 特別講演(2018年11月26日午後)

- 講演者・講演内容を検討中

# その他

- 食堂など：
  - 札幌キャンパス内のレストランや食堂情報
  - クラーク会館横に生協売店
  - 札幌キャンパス向かいにコンビニやレストランなど
- 懇親会について：
  - 札幌キャンパス工学部食堂を予約済(100名程度)
  - 札幌キャンパス内のレストランに予約可能か確認予定(エンレイソウ(立食100名程度)が撤退し、次のレストランの決定は5月とのこと)
  - 近隣のホテル？
- ホテル(宿泊)：

他学会やコンサートのイベント開催時期と重なる可能性がありますので早めにご予約ください。

# 予算関係

- 支出(予定)：1,457,760円
  - 会場費：11月25-27日(09:00 - 19:00)
  - アルバイト：昨年度と同じ程度.
  - その他：
- 収入：
  - 北海道河川財団等に申請予定

# スケジュール(案)

- 5月1日(火) 投稿WEBサイトオープン
- 5月31日(木) 投稿締切
- 6月6日(水),7日(木) 第1回編集幹事会・小委員会 (査読者選定) cf. 河川シンポ  
(6/12, 13)
- 6月29日(金) 査読×切
- 7月9日(月) 第2回編集幹事会・小委員会 (一次査読, 修正依頼, 返却処理)  
(メール審議)
- 7月31日(火) 修正原稿×切
- 8月21日(火) 第3回編集幹事会 (最終判定, プログラム編成)
- 8月下旬 最終原稿締切
- 9月末～10月下旬頃までに プログラム, 座長確定。その後 CD作成、郵送など
- 11月25(日), 26(月), 27(火) 水工学講演会@北海道大学 cf. 海岸工学(11/14, 15, 16)

# 大会期間中に想定される委員会等 (岡山大会の情報)

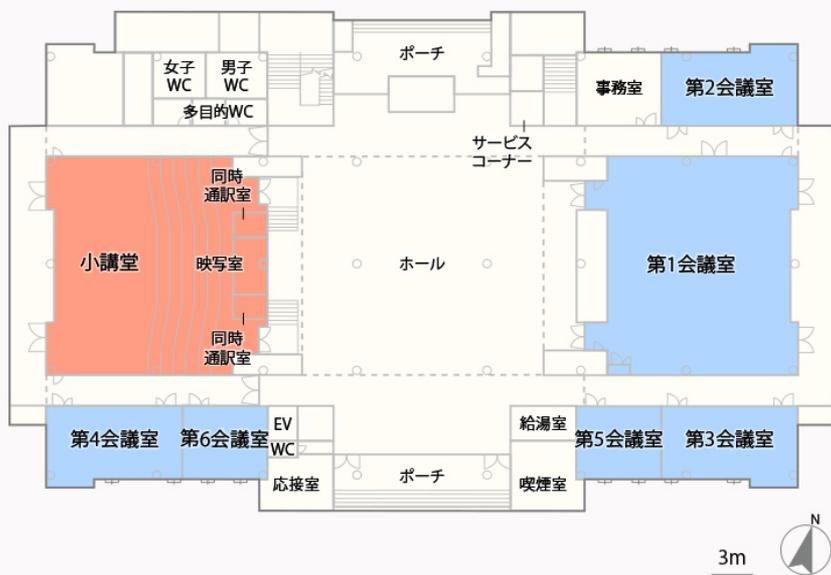
- 水工学委員会
- IAHR JAPAN Chapter
- 水害対策小委員会
- 基礎水理部会
- 環境水理部会
- 水文部会
- グローカル気候変動適応研究推進小委員会
- 学生， スタッフ等昼食 3日間

# 会場使用にかかる料金表

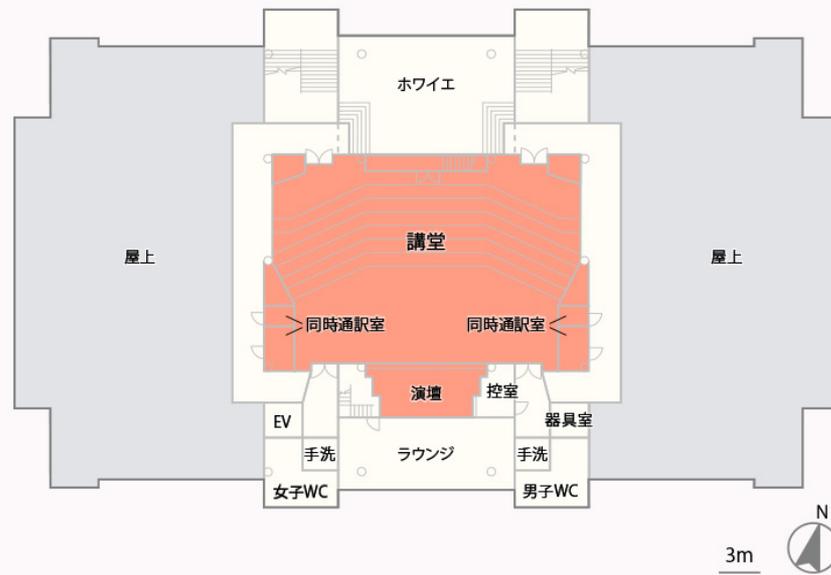
学術交流会館（開館時間9：00-19：00）							
2018.11.25-27		11/25		11/26-27			
会議室名	サイズ（名）	料金（土日1h）	土日利用時間	土日料金	料金（平日1h）	平日利用時間	平日料金
講堂	310	¥12,500	12	¥150,000	¥10,400	24	¥249,600
小講堂	196	¥7,600	12	¥91,200	¥6,300	24	¥151,200
第1会議室	150	¥7,100	12	¥85,200	¥5,900	24	¥141,600
第2会議室	24	¥1,400	12	¥16,800	¥1,200	24	¥28,800
第3会議室	50	¥1,400	12	¥16,800	¥1,200	24	¥28,800
第4会議室	50	¥1,400	12	¥16,800	¥1,200	24	¥28,800
第5会議室	10	¥800	12	¥9,600	¥700	24	¥16,800
第6会議室	12	¥800	12	¥9,600	¥700	24	¥16,800
応接室		¥700	12	¥8,400	¥600	24	¥14,400
ホール		¥7,400	12	¥88,800	¥6,200	24	¥148,800
共用設備				¥0	¥0		¥0
サービスコーナー				¥0	¥0		¥0
クラーク会館集会場	510	¥9,940	12	¥119,280	¥8,280	24	¥198,720
クラーク会館大ホール	90	¥2,620	12	¥31,440	¥2,180	24	¥52,320
合計			55	¥643,920			¥1,076,640

# 学术交流会館

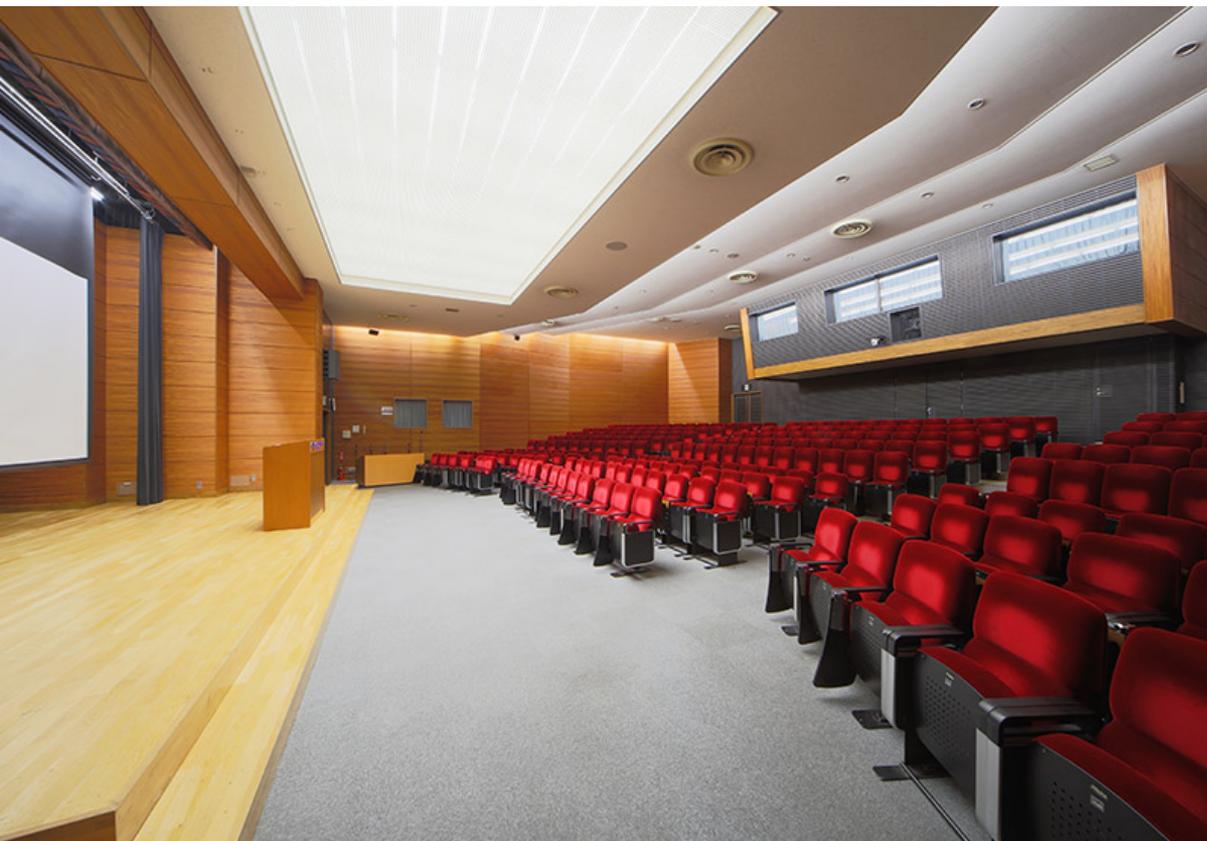
## 1階



## 2階



# 学術交流会館 講堂(第1会場)



306席 (347m<sup>2</sup>) の講堂。

開会式、閉会式、講演会の実施

ステージと2つの演台、スクリーンを備えている。

設備ステージ／電動開閉式バリマスク／ハンドル手動昇降装置／電動スクリーン／プロジェクター(固定)／録音用DVD／VTR(VHS)／MDカセットデッキ／再生用DVD／VTR(VHS)／演台(2個)

# 学術交流会館 小講堂(第2会場)



194席 (222㎡) の講堂。

第2会場

講堂と同仕様の椅子を常設しています。ステージは内容にあわせて撤去することができます。

設備ポータブルステージ／電動開閉式バリマスク／電動スクリーン／プロジェクター(固定)／録音用DVD／VTR(VHS)／MDカセットデッキ／再生用DVD／VTR(VHS)／演台 (2個)

# 学术交流会館 第1会議室 (第3会場)



150席 (219㎡) の会議室。

小講堂とほぼ同規模のフラットなフロア。

設備電動スクリーン／  
ポータブルステージ／録音  
用MDカセットデッキ／再  
生用VTR(VHS)／演台／司  
会者台

# 学術交流会館 第3、4会議室 (第4、5会場)



2室共に50席 (55㎡) の会議室。

机と椅子の数を調整し、第4、5会場ともに60-70席とする予定。

設備電動スクリーン／演台  
(マイク付)

# クラーク会館 大ホール(90席) (第6会場)



講演会・大会議等に利用できるよう、会議用長机・折りたたみ椅子・プロジェクター・スクリーン等を備えている。

学术交流会館から徒歩4,5分。



# 学術交流会館 第2会議室 (委員会で使用予定)



24席 (55㎡) の会議室。  
55㎡の会議室は3室あり、第2会議室は24席。

椅子の数は調整可能。

設備電動スクリーン／  
演台 (マイク付)

# 学術交流会館 第5、6会議室



2室共に32㎡の会議室。  
第5会議室は10席、第6会議室は12席。

第5会議室：展示品保管  
椅子と机を持ち込み、委員会  
で使用可能か検討中。

第6会議室：受付関係物置

設備電動スクリーン

# 学術交流会館 応接室

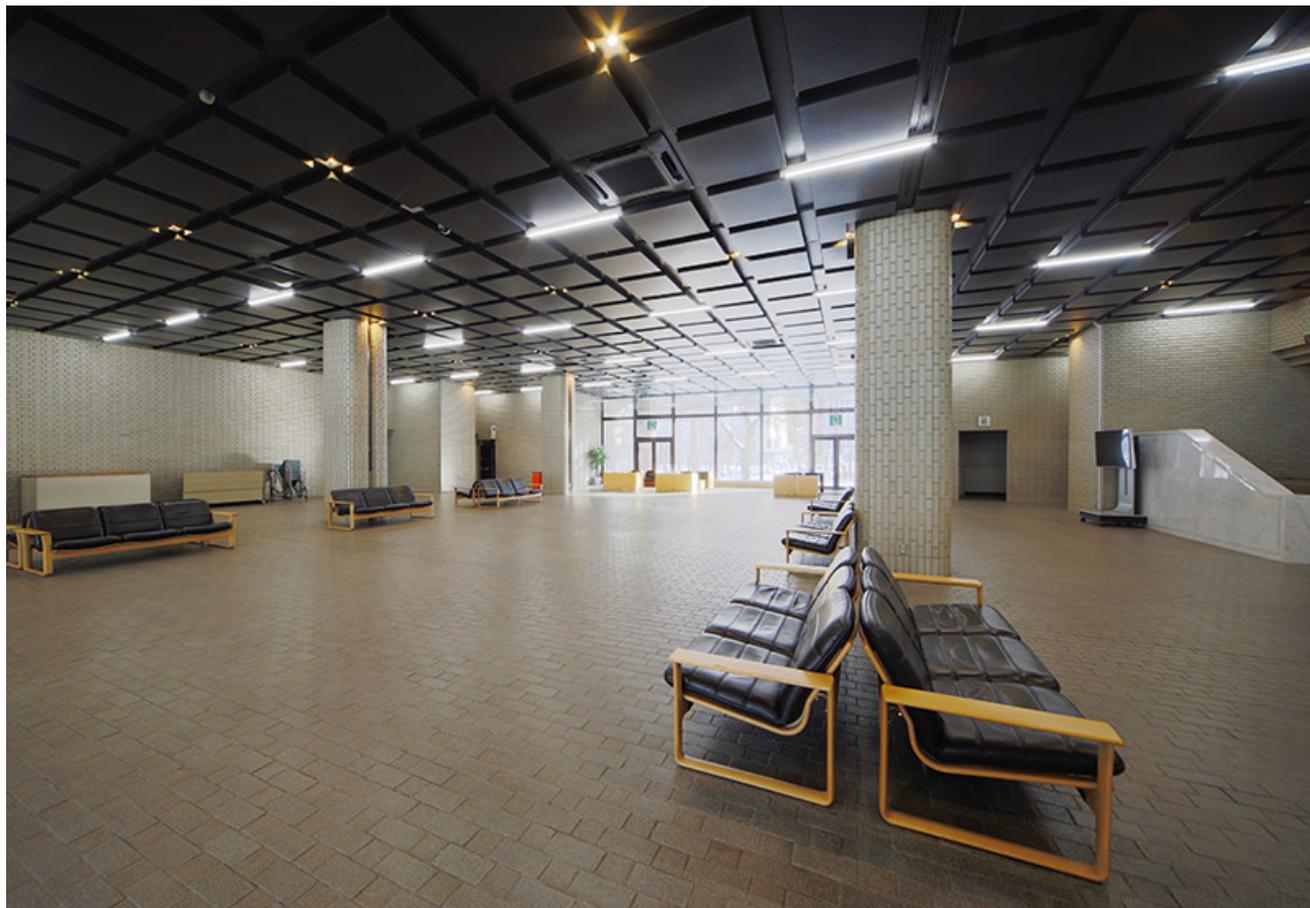


対面式のソファとテーブルを配置した応接室。

講演者控え室。

設備テーブル／ソファ／  
食器棚／トイレ／洗面台

# 学術交流会館 ホール



エントランス入って正面が広めのホールとなっており、通常はベンチやチェアを配置。

学会受付や展示に使用予定。

# 学術交流会館 ホワイエ(2F)



展示に利用可能。

# 学術交流会館 その他



給湯室にお茶出し道具や冷蔵庫があり、給湯室奥には喫煙室があります。また、コピー機や自動販売機が設置されているサービスコーナーも利用可能。  
2F講堂にはホワイエやラウンジあり。

設備○ 給湯室  
冷蔵庫／製氷器／ポット  
／水差し／湯茶道具一式  
／茶碗／ケーキ皿等／  
コーヒー茶碗／グラス／  
喫煙室○ サービスコー  
ナー  
コピー機／自動販売機

# 第63回水工学論文集 編集作業について(会議予定案)

開催日	会議	会場
2018年5月1日(火)	論文投稿受付開始	
<b>2018年5月31日(木)</b>	論文投稿受付締切	
2018年6月6日(水)	第一回編集小委員会幹事会	土木学会??会議室
2018年6月7日(木)	第一回水工学委員会 & 幹事会 <b>第一回編集小委員会</b>	土木学会??会議室
2018年6月29日(金)	第1回査読期限	
2018年7月9日(月)	第二回編集小委員会(メール審議)	
2018年7月31日(火)	修正原稿締切	
2018年8月7日(火)	第三回編集小委員会(メール審議)	
2018年8月21日(火)	第二回編集小委員会幹事会	土木学会??会議室
2018年8月28日(火)	最終原稿締切	
2018年11月25日(月)	第二回水工学委員会(@講演会)	北海道大学

# 編集体制について：編集小委員会委員構成（青字：昨年度実績，赤字：提案）

分野	投稿論文数	委員数	委員あたり査読数
水文	95	15 (17)	12.6 (11.2)
河川水理	53	10	10.6
流砂	44	9	9.7
河川環境	41	11	7.5
湖沼・ダム・沿岸	28	8	7.0
水災害・防災・減災	83	15	11.1

## 【委員構成について】

✓昨年度の編集小委員会委員・委員兼幹事を基本とする。

✓一委員あたり平均査読数を11程度までに抑えられることを目標に，委員を前・現幹事and/or部会長の推薦で加える。

# 予算上の課題

## 第61回水工学講演会 決算

収入	著者負担金送料込み@35,000×245編	¥8,575,000
	論文集販売@5,000×102冊(事前+当日)	¥510,000
	論文集送料@900×72人	¥64,800
	参加費(なし)	¥0
	広告	¥56,700
	製品展示	¥0
収入合計		¥9,206,500
支出	1. 会場関係費(会場使用料)	¥394,960
	2. 会場関係費(PCプロジェクター等の備品)	¥111,518
	3. 特別講演講師への謝金, 旅費	¥205,041
	4. 編集委員会費(旅費、お弁当)	¥2,751,100
	5. 論文投稿、査読システム運用費	¥1,474,158
	5は印刷 ポスター・プログラム印刷を含む	
	7. 論文集事前発送宅急便代	¥197,100
	8. 宣伝費 a(ポスターデザイン料)	¥30,000
	9. " b(DM発送費等)	¥136,420
	10. 事務局関係(職員出張費等)	調査研究費
	11. 学生アルバイト	¥508,640
	12. 通信経費・連絡費	¥11,474
	13. その他 a(J-Stageアップロード(土論指定業者))	¥311,850
	14. " b(期間中の委員会、部会お弁当代)	調査研究費
	15. " c(事務用品・資料印刷)	¥0
	16. " d(会場案内看板)	¥0
	17. 定期購読買上(出版部門)	
	18. 参加券作成	
	19. 管理費(30%)	¥2,761,950
支出合計		¥8,894,211
収支差額		¥312,289

### 予算上の課題

- ✓ 収入: 第61回では著者負担金を増額. 参加費はなし. 投稿に際して会員・非会員の区別
- ✓ 支出: 会場使用料金, 編集委員会費(旅費・お弁当)などが比較的高額.

⇒ 編集委員会費の減額をさらに検討

⇒ 企業広告収入を増益

## 「第23回水シンポジウム2018 in ふじのくに・沼津」

## 第1回実行委員会・企画部会 合同会議

日時：平成29年10月10日（火）14：30～

場所：静岡県庁 別館8階 特別会議室（和室）

## 次 第

## 1 開会

## 2 挨拶

## 3 議事

(1) 実行委員会規約および (資料1)

実行委員会等の構成について (資料2)

(2) 日程・会場について (資料3)

(3) メインテーマ（試案）について (資料4)

(4) 分科会の方向性（試案）について (資料5)

(5) プログラム（案）について (資料6)

(6) 予算（案）について (資料7)

(7) 開催準備スケジュール（案）について (資料8)

(8) その他

## 4 閉会

「第23回水シンポジウム2018 in ふじのくに・沼津」  
実行委員会規約（案）

（名 称）

第1条 本会は、「第23回水シンポジウム2018 in ふじのくに・沼津」実行委員会（以下「実行委員会」という。）と称する。

（目 的）

第2条 実行委員会は「第23回水シンポジウム 2018 in ふじのくに・沼津」（以下「水シンポジウム」という。）の円滑かつ効果的な開催を図ることを目的とする。

（実行委員会）

第3条 実行委員会は、水シンポジウムの開催及び運営に関する企画事項の決定を行うものとし、実行委員は別表1に掲げる者若しくは職にある者をもって充てる。

2 実行委員長は、土木学会水工学委員会委員長の職にある者をもって充てる。

3 実行委員長は、会務を総括し、実行委員会を代表する。

4 実行委員会に顧問を置くことができる。

5 顧問は、実行委員会の活動に際し、指導と助言を行うものとする。

6 実行委員会の会議は、実行委員長が召集するものとし、会議の議長は実行委員長が務める。

ただし、実行委員長に事故等のあるときは、あらかじめ実行委員長が指名する実行委員がその職務を代行する。

7 実行委員長が必要と認めたときには、実行委員長の指名した者を実行委員に加えることができる。

（企画部会）

第4条 水シンポジウムの開催内容に関する総合的な企画立案を行うため、企画部会を設置する。

2 企画部会員は別表2に掲げる者若しくは職にある者をもって充てる。

3 企画部会長は、土木学会水工学委員会幹事長の職にある者をもって充てる。

4 企画部会長が必要であると認めたときは、企画部会長の指名した者を企画部会員に加えることができる。

- 5 企画部会の会議は、企画部会長が召集するものとし、会議の議長は企画部会長が務める。ただし、企画部会長に事故等のあるときは、あらかじめ企画部会長が指名する企画部会員がその職務を代行する。

#### (監 事)

第5条 監事は、実行委員会の会計を監査するものとし、実行委員長の指名した者をもって充てる。

#### (任 期)

第6条 実行委員、顧問、企画部会員、監事の任期は、この実行委員会が解散するまでとする。

#### (事務局)

第7条 実行委員会および企画部会の事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局員は別表3に掲げる者若しくは職にある者をもって充てる。
- 3 事務局長は、静岡県交通基盤部河川砂防局河川企画課課長代理の職にある者をもって充てる。
- 4 事務局長が必要であると認めたときには、事務局の指名した者を事務局が行う会議に参加させることができる。
- 5 事務局は、静岡県交通基盤部河川砂防局河川企画課に置く。

#### (経 費)

第8条 実行委員会の経費は、分担金その他の収入をもって充てる。

- 2 経費の精算は、事業終了後に行う。

#### (資金の管理および支出)

第9条 実行委員会の資金の出納を管理するため会計を置くこととし、実行委員長の指名した者をもって充てる。

#### (その他)

第10条 この規約に定めるもののほか、水シンポジウムの開催に関し必要な事項は、実行委員会に諮り、実行委員会の委員長がこれを定める。

附 則 この規約は、平成29年10月 日から施行する。

「（仮称）第23回 水シンポジウム2018 in ふじのくに・沼津」  
実行委員会等名簿

別表1 実行委員会（◎実行委員長）

	機関名	役職名	氏名	備考
◎	土木学会水工学委員会	委員長	清水 康行	北海道大学
	中部地方整備局河川部	部長	児玉 好史	
	静岡県交通基盤部	部長	鈴木 克英	
	沼津市建設部	部長	鈴木 文男	
	土木学会		牛山 素行	静岡大学
	土木学会 水工委員会	幹事長	竹林 洋史 ※1	京都大学
	中部地方整備局沼津河川国道事務所	所長	藤井 和久	
	静岡県交通基盤部	河川砂防局長	長縄 知行	

※1 企画部会を兼務

※2 委員がやむを得ない事由により欠席する場合、その委員がその所属する団体や会の役員等の中から代理人を定め、その者を代理人として出席させることができることとする。

別表2 企画部会（○企画部会長）

	機関名	役職名	氏名	備考
○	土木学会 水工学委員会	幹事長	竹林 洋史	京都大学
	土木学会 水工学委員会	環境水理部会長	矢島 啓	島根大学 (予定)
	土木学会 水工学委員会		戸田 祐嗣	名古屋大学
	土木学会 水工学委員会		大石 哲	神戸大学
	土木学会 水工学委員会		田代 喬	名古屋大学
	中部地方整備局河川部	河川計画課長	栗林 孝典	
	中部地方整備局沼津河川国道事務所	副所長	杉山 紀行	
	静岡県交通基盤部河川砂防局河川企画課	課長	太田 博文	
	沼津市建設部河川課	課長	橋本 大介	

別表3 事務局

	機関名	役職名	氏名	備考
	土木学会	研究事業課	松沼 岳	
	土木学会 水工学委員会		溝口 敦子	名城大学
	土木学会 水工学委員会		横嶋 哲	静岡大学
	中部地方整備局河川部河川計画課	課長補佐	細野 貴司	
	中部地方整備局河川部河川計画課	調査第一係長	森下 慎太郎	
	中部地方整備局沼津河川国道事務所調査課	課長	程谷 浩成	
	中部地方整備局沼津河川国道事務所調査課	調査係長	楡濱 学	
	静岡県交通基盤部河川砂防局河川企画課	課長代理	望月 嘉徳	事務局長
	静岡県交通基盤部河川砂防局	主任	半澤 栄治	
	静岡県交通基盤部河川砂防局河川企画課	主任	三井 良太	
	静岡県交通基盤部河川砂防局河川海岸整備課	主任	小野田 紘貴	
	沼津市建設部河川課	課長補佐	福岡 知己	
	沼津市建設部河川課	管理係長	若林 伸弘	
	沼津市産業振興部観光戦略課	専門官	渡辺 勝巳	

## 日程・場所について

## 【日程】

○ これまでの水シンポジウムの実績や夏休み期間中の開催に配慮し

・平成30年 8月23日（木）から8月24日（金）〔2日間〕

の開催としたい。

8月23日（木） シンポジウム

8月24日（金） 現場見学会

## 【場所】

会場については、人数、地理的条件、会場使用料などを考慮し、次のとおりとしたい。

プラサ ヴェルデ（ふじのくに千本松フォーラム）

沼津市大手町1-1-14（JR沼津駅北口）

○ メイン会場、ホールA-2（1階）（510席）

○ 第1分科会会場：ホールA-2（1階）（510席）

○ 第2分科会会場：ホールA-1（3階）（360席）

・控え室等：（会議室を確保する予定）

「第23回水シンポジウム2018 in ふじのくに・沼津」  
メインテーマ（試案）について

再発見!! ふじのくにの<sup>みず</sup>水チカラ  
～ 水と私たちの暮らしのこれからを考える ～

<主旨>

水は、“ふじのくに”に、様々な恩恵と多様な魅力をもたらしています。

とりわけ、霊峰富士を間近に眺める静岡県東部地域では、富士山が育む豊富な湧水や天城山系を源とする清らかな流水が、古くから私たちの暮らしの様々な活動と深い関わりをもち、地域の営みや発展を支えてきました。狩野川をはじめとする市街地の水辺空間は、地域の顔となる景観を成し、日常的な市民生活の中に溶け込み、住む人にやすらぎや大いなる活力を与え、訪れる人の心を躍らせています。さらには、水辺をフィールドとした市民活動や地域連携は、豊かな水辺環境の創出や保全にとどまらず、人づくり、地域づくりにつながる大きな推進力となっています。こうした水辺の魅力は、言うまでもなく後世に引き継ぐべき地域の貴重な財産です。

一方、近年では、強い勢力を保ったまま来襲する台風や大きな破壊力を伴う洪水のニュースが頻繁に全国から届き、自然の荒々しさを目にする機会が多くなりました。勢いを増す自然の猛威には私たちは非力であり、水の威力もまた、私たちの暮らしに大きな影響力を持っています。天城山系や富士山麓は、年平均降水量3,000mmを越える多雨地域であり、降雨は梅雨期、台風期に集中する傾向にあります。甚大な被害をもたらした狩野川台風から60年を迎える今こそ、関係者が協力し、知力や技術力を集結して水害への耐力を高めることが求められています。さらには、私たち一人ひとりが、水害リスクの適切な知識と行動力を身につけることで、水害に強い社会を築いていく必要があります。

“ふじのくに”の水が持つチカラを様々な視点から見つめ直し、私たちの暮らしとのつながりを改めて議論して、これからの水とのつき合い方についての提案を全国へ発信します。

## 「第 23 回水シンポジウム 2018 in ふじのくに・沼津」 分科会の方向性（試案）について

### ○ 第 1 分科会 <学会>

「(仮) 河川空間を活用したまちづくり、これからの水活用の視点を考える」

水辺の空間を活用したまちづくりが全国各地で取り組まれている。静岡県東部地区の水辺で新たなにぎわいの創出を図るうえでの強み（水の魅力）について、学術的な知見を踏まえて共有し、地域特性を感じるオンリーワンの水辺づくりを進める方策を探る。

<キーワード>

- 産学官民が連携したにぎわい創出に資する取組（環境教育等(全国事例)）
- 水辺利用において考慮したい河川特性
- 狩野川の水辺を利用したにぎわいの創出（かのがわ風のテラス）
- 河川利用の拠点づくり（かななみ川の駅）

### ○ 第 2 分科会 <行政>

「(仮) 狩野川台風から 60 年、これからの水害対策を考える」

近年の気象現象の変化、豪雨の発生状況などを共有し、自然災害（水の威力）から生命、財産を守り、減災を図るために、防災に関わる行政はもとより、教育現場、自主防災組織など、地域住民のそれぞれの立場で、取り組み事例等を共有し、住民の高い防災意識のあり方、減災に不可欠な地域防災力の向上策を探る。

<キーワード>

- 近年の降雨傾向（気象）
- 水防災意識社会再構築に関わる取り組み（水防災意識再構築）
- 狩野川台風を風化させないための取り組み（防災教育）

### 分科会の進め方

パネルディディスカッション（コーディネータ、パネリスト：6名程度）  
（パネリストの選定対象）

- ・ 土木学会水工学委員会
- ・ 行政職員（首長、河川管理者、防災関係、気象庁など）
- ・ 市民活動団体の代表者
- ・ 地域防災担当者（自治会役員など）
- ・ 教育関係者
- ・ 報道機関職員

※ 「方向性（詳細）」、「テーマ」、「登壇者」等は、企画部会で検討し、次回、実行委員会にて決定する。

「第23回水シンポジウム2018 in ふじのくに・沼津」  
プログラム(案)

■ 8月23日(木) 第1日目 シンポジウム

会場：プラサ ヴェルデ (500人を想定)

【午前の部：メイン会場(ホールA-2)】

9:00 開 場

9:30 開 会 (30分)

シンポ趣旨説明 (2分) 司会

開会挨拶 (8分) 実行委員会委員長

実行委員紹介 (2分) 司会より紹介、壇上一礼

来賓挨拶 (各5分) 中部地方整備局長、静岡県知事、沼津市長

プログラム案内 (3分) 司会

10:00 特別講演 (50分) 講師未定

10:50 基調講演 (60分) 講師未定

11:50 昼 休 憩

【午後の部：分科会等】

12:50

テーマ別分科会 (130分)

第1分科会 担当：土木学会

会場：ホールA-2 510席

第2分科会 担当：行政

会場：ホールA-1 360席

15:00 休憩

15:10 児童生徒・市民団体等による発表 (全体会議打合せ) (40分)

15:50 全体会議 (60分)

各分科会まとめとメッセージ発信

16:50 次回開催県挨拶 (10分)

17:00 閉 会

【パネル展示】 (会場：プラサ ヴェルデ ホワイエ 利用)

■ 8月24日(金) 第2日目 現地見学会 (見学先：未定)

定員 約40人を想定

## 「第23回水シンポジウム2018 in ふじのくに・沼津」予算（案）

## ■収入

(単位：千円)

項 目		金 額	備 考
負担金	土木学会水工学委員会	200	
	静岡県	200	
	沼津市	200	
	負担金 小計	600	
助成金	(公財)河川財団	1,800	H29実績 1,800千円
	(一財)防災研究協会	200	H29実績 200千円
	共催団体助成金	1,730	下記参照
	助成金 小計	3,730	
雑収入	現地見学会参加費（弁当、バス代等）	80	2千円×40人
	雑収入 小計	80	
合 計		4,410	

## ■支出

(単位：千円)

項 目		金 額	備 考
運営経費	会場・設備費	613	前日午後(準備)、当日の施設、及び付属設備の借上費用（見積もり）
	企画、運営、設営等（運営委託外注）	3,120	過去実績より
	講演者、分科会出演者等	560	過去実績より
現地見学会経費	昼食、見学科等	55	過去実績より
諸経費	会議費、印刷費、通信費	62	過去実績より
合 計		4,410	

## ◇ 共催協力要請先（案） ◇

- ・一般社団法人 日本建設情報総合センター（JACIC） 中部地方センター
- ・一般社団法人 中部地域づくり協会
- ・一般社団法人 日本建設業連合会 中部支部
- ・一般社団法人 建設委コンサルタンツ協会〔JCCA〕 中部支部
- ・社団法人 全国地質調査業協会連合会
- ・一般社団法人 中部地質調査業協会
- ・一般社団法人 静岡県建設業協会
- ・一般社団法人 静岡県建設コンサルタンツ協会
- ・一般社団法人 静岡県測量設計業協会
- ・静岡県地質調査業協会
- ・静岡県河川協会

## 「第23回水シンポジウム in ふじのくに・沼津」開催準備スケジュール（案）

年月	会議名			主な議題	備考 (山口大会)
	委員会	企画部	事務局		
<b>平成29年度</b>					
	(事前調整)			<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会メンバーの選出（内諾）</li> <li>・シンポジウムテーマ、分科会概要検討</li> </ul>	
10月10日				<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回実行委員会、企画部会の事前調整</li> </ul>	11月17日
10月10日	①	①	①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実行委員会の設立</li> <li>・開催日程・会場の決定</li> <li>・メインテーマ、開催内容、予算(案)の審議</li> <li>・基調講演の企画提案</li> <li>・分科会のテーマ、役割分担の企画提案</li> </ul>	11月17日
11月末				河川財団 助成金申請（申請期限：11月末）	11月27日
12月末まで				防災研究協会 助成金申請（6ヶ月前まで）	1月8日
12月末まで				協賛団体への協力依頼・調整	
2月中旬		②	②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分科会のテーマ、内容の企画提案</li> <li>・現地見学会の企画提案</li> <li>・広報計画及び会場レイアウトの検討</li> <li>・開催運営支援業務委託の検討</li> </ul>	2月12日
<b>平成30年度</b>					
4月上旬				開催運営支援業務委託の発注	4月
5月中旬			③	シンポジウム当日の動員計画等	5月31日
5月下旬	②	③	④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催内容の最終決定</li> <li>・広報計画の最終決定</li> <li>・会場レイアウトの最終決定</li> </ul>	6月17日
7月下旬			⑤	当日運営の最終確認	7月
8月22日				会場準備及び各種リハーサル	
8月23日				「(仮称) 第23回水シンポジウム in ぬまづ」	8月25日
8月24日				現地見学会	8月26日
12月末			⑥	<ul style="list-style-type: none"> <li>・決算</li> <li>・最終報告書の確認</li> </ul>	10月

水シンポジウム

回	年度	北海道	東北	関東	中部	関西	四国	中国	西部	担当部会
1	1996							鳥取		
2	1997					兵庫				
3	1998		福島							
4	1999			東京						
5	2000								熊本	
6	2001				富山					
7	2002	札幌								
8	2003						愛媛			
9	2004							広島		
10	2005					大阪				
11	2006		宮城							
12	2007				愛知					
13	2008			千葉						
14	2009				新潟					
15	2010								福岡	河川
16	2011					京都				環境水理
17	2012				岐阜					基礎水理
18	2013						高知			水文
19	2014								長崎	河川
20	2015				福井					環境水理
21	2016							山口		基礎水理
22	2017								沖縄	水文
23	2018				静岡					河川
										環境水理

未開催県		岩手県	茨城県	三重県	滋賀県	徳島県	島根県	佐賀県
		山形県	栃木県	長野県	奈良県	香川県	岡山県	大分県
		秋田県	群馬県	石川県	和歌山県			宮崎県
		青森県	埼玉県	山梨県				鹿児島県
			神奈川県					

## 平成30年度第54回水工学に関する夏期研修会

主催：公益社団法人 土木学会（担当：水工学委員会，海岸工学委員会）

後援：公益社団法人 土木学会中国支部（予定）

期日：2018年9月10日（木）～11日（金）（A・B並行開催）

場所：山口大学 工学部 D棟講義

テーマ：河川工学における新技術利用（Aコース河川）  
沿岸域にける環境研究の変遷とこれから（Bコース海岸）



D講義棟



講師・講演内容  
 (講演順番は調整中,  
 講演題目は仮題)

水工	海岸
最新気象レーダーによる豪雨予測 [京都大学・中北英一]	水質とその対応策の変遷(社会の動きとの関連, 考え方の変遷) [横浜国立大学・中村由行]
環境 DNA を用いた河川生物量推定 [山口大学・乾隆帝]	海洋学会では沿岸環境問題をどのように捉えて来たか(比較海洋学など) [国際エメックスセンター・柳哲雄]
GISを用いた流域全体の流木リスク管理手法 [九州大学・矢野真一郎]	土木学会では沿岸環境問題をどのように捉えてきたか?これからの学会間連携等について [大阪市立大学・重松孝昌]
題目調整中(iCONSTRUCTION関係) [国土交通省(調整中)]	水産学会では沿岸環境問題をどのように捉えてきたか?これからの学会間連携等について [瀬戸内水研・濱口昌己]

水工	海岸
題目調整中(IOT関係) [福岡工業大学・森山聡之]	リモートセンシングによる沿岸環境モニタリング,これまでとこれから [広島大学・作野裕司]
河道のUAV空中写真測量 [山口大学・神野有生]	沿岸数値モデルの歴史とこれからの方向性 [大阪市立大学・相馬明郎]
光技術を用いた水質生態系改善 [山口大学・朝位孝二]	防災と環境(超巨大イベントに対する研究の方向性-防災,市民,行政との関係,東南海地震津波への教訓) [首都大学東京・横山勝英]
調整中	グリーンカーボン(温暖化に関する話題)の歴史とこれから,土木がやるべきこと [港湾空港技術研究所・桑江朝比呂]

# 土木学会論文集B部門合同編集小委員会委員推薦

委員長	泉 典洋	北海道大学	
委員	石塚 正秀	香川大学	→ 手計太一(富山県立大学)
委員	小笠原 敏記	岩手大学	
委員	高橋 正行	日本大学	
委員	田代 喬	名古屋大学	→ 赤松良久(山口大学)
委員	森屋 陽一	五洋建設株式会社	
委員	山上 路生	京都大学	→ 音田慎一郎(京都大学)
幹事	鈴木 善晴	法政大学	
幹事長	山城 賢	九州大学	

## 土木学会水工学委員会

## グローバル気候変動研究推進小委員会内規（案）

平成30年 3月 7日（制定）

## （組織上の位置づけ）

第1条 グローバル気候変動研究推進小委員会（以下小委員会という）は、土木学会水工学委員会が設けた小委員会の一つであり、水工学委員会の基本方針やその定めるところに従って活動する。

## （活動目的）

第2条 小委員会では、水工学分野における気候変動に伴う影響評価と適応策検討に関する研究を推進することを目的に土木学会水工学委員会の下に設置された。水工学委員会の4部会（基礎水理部会、河川部会、水文部会、環境水理部会）とも連携し、水工学研究者間の共同研究や情報交換を促進させ、当該分野の研究の活性化と若手研究者の育成を図ることを目的とする。

## （活動内容）

第3条 小委員会は、上記の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 気候変動による影響評価、適応策、ならびにこれに関連する問題の研究、調査
- (2) 講演会、講習会、研究集会、見学会等の開催
- (3) メールリストやWebページなどを通じた気候変動に関する情報の交換
- (4) 水工学分野の気候変動による影響評価・適応に関係する国内および国外の学協会関係機関との研究連絡
- (5) 水工学分野の気候変動による影響評価・適応に関する刊行物発刊の企画編集等
- (6) その他、目的達成のために必要な事項

## （委員構成）

第4条 小委員会の構成は、水工学委員会内規に従うものとする。水工学委員会内規に定めのない場合、次の原則に従うものとする。

- (1) 小委員長は、小委員会委員の中から次期小委員長候補者を小委員会に提案し、審議を経た後、水工学委員長に推薦する。
- (2) 小委員会委員は、土木学会会員であり、任期は2年とする。また、再任は妨げない。
- (3) 小委員会委員の構成は地域・専門分野のバランス、年齢構成に配慮して小委員長が小委員会委員案を作成し、小委員会での審議を経た後、水工学委員長に推薦する。水工学委員長の指名に基づき、小委員長は小委員会委員の委嘱を行う。
- (4) 小委員会に幹事を置き、幹事長を1名置く。幹事は小委員会委員から小委員長が指名し、幹事長は小委員長が幹事の中から指名する。幹事長は、幹事と小委員長から構成される幹

- 事会を開催し、小委員会の運営方針などの審議を行い、小委員会へ提案することができる。
- (5) 学生は小委員会委員としない。
  - (6) 任期半ばで委員が交代する時は、後任委員の任期は前任者の任期を引き継ぐものとする。
  - (7) 小委員会には小委員会委員以外にオブザーバーの参加を認める、このオブザーバー対象者は、元小委員会委員や小委員会活動に興味がある若手研究者・技術者であり、土木学会会員であり、小委員長が承認した者とする。

(活動報告)

第5条 小委員会委員長は、水工学委員会内規に従い、水工学委員会委員長の要請により小委員会の活動状況を水工学委員会に報告することとする。

(審議)

第6条 審議は、小委員会において議論を行うとともに、メーリングリスト上での議論により行うことができるものとする。

(メーリングリスト)

第7条 小委員会メーリングリスト(アドレスは参考資料を参照)は小委員会委員とオブザーバーからなるものとする。

(事務局)

第8条 小委員会を運営するにあたり土木学会事務局の支援を要請することができる。

(内規の変更)

第9条 本内規の改正は、小委員会の承認により行い、水工学委員会に報告する、

## 参考資料

- ・ 小委員会の設立経緯  
2015年12月に水工学委員会において4部会からメンバーを水工学委員長が選定し、気候変動による影響への適応に向けた研究・活動の推進WGが設置された。その後、2016年3月の水工学委員会にて常設小委員会の設置が認められ、現在に至る。
- ・ 小委員会のMLアドレス  
現在は、glocal\_cc\_adapt@ml.jsce.or.jpを使用する。
- ・ 小委員会幹事会のMLアドレス  
現在は、glocal\_cc\_kanji@ml.jsce.or.jpを使用する。

## 平成30年度全国大会開催に伴う研究討論会企画 (2018/03/05原案→3/7のグローバル小委員会で審議予定)

タイトル:「気候変動適応に関する先進事例から学ぶ水工学分野の課題(案)」

座長:グローバル適応小委員会より

話題提供者: ※あくまでも予定です.

- 北海道の取組事例紹介(長めの講演)
- 平成29年7月九州北部豪雨から得られた教訓(長めの講演)
- 海岸工学委員会の気候変動適応委員会から1名
- パネラーを+1~2名程度
- 主題:気候変動の影響評価, 適応策の研究推進が求められているが, 影響評価と比較して適応策研究が十分に進み活用されているとは言いがたい. 水工学分野の社会実装についての方法論についても未だ不明瞭な点が多い. そのような中, 北海道地方では平成28年8月の北海道大雨激甚災害を契機に, 気象・治水・防災等の観点からの検証がおこなわれ, その後, 平成29年より「北海道地方における気候変動予測(水分野)技術検討委員会」が設置され, 気候変動の影響評価の知見を基にした適応策の検討が進められている. また, 九州では平成29年7月九州北部豪雨が発生し, 気候変動の影響を意識した治水のあり方の議論が行われている. これらの先進事例に学び, 水工学分野における気候変動適応研究の方向性を議論する.

## 土木学会論文集 B1 分冊（英文）の SCI 対象論文集化について

### 1. 土木学会論文集通常号の存在意義の変化と投稿数の減少

2008年から2011年にかけて行われた土木学会論文集の改革・再編によって、水工学論文集をはじめとする委員会論文集の幾つかは土木学会論文集の特集号となり、それまでの土木学会論文集は通常号と位置付けられることになりました。土木学会論文集としての格付けが与えられた特集号は、その後も安定的に投稿数を確保しているのに対して、通常号はいずれの分冊においても投稿数および掲載数を大幅に減らしています。旧第2部門、現B分冊についてみると、2000年から2005年までの平均年間掲載数が48編であったのに対し、2017年の投稿数は39編、掲載数は20編となっています。土木学会論文集全体を見ても、改革・再編が行われる直前の2010年における投稿数および掲載数がそれぞれ473編および309編であったのに対し、2017年の投稿数および掲載数はそれぞれ355編および242編となっています。

近年、*impact factor* (IF)付きの国際誌に掲載された論文を業績として高く評価する風潮がますます顕著になっています。また、ネット上での検索技術や自動翻訳技術が進んだことから、和文と英文論文の重複性についてもより厳格に評価されるようになり、和文論文集に掲載された論文と類似の論文を国際誌に投稿することはできなくなりました。投稿から掲載までの期間が比較的短く速報性にメリットのある特集号には、まだ投稿の意味がありますが、業績として評価され難く、掲載されると国際誌に投稿することもできない通常号には、投稿する意味を見出せないのも無理はないでしょう。通常号の存在意義が急速に失われていることが、投稿数および掲載数減少の主たる原因となっているのではないのでしょうか。この傾向は今後ますます強まることが懸念されます。

### 2. 日本発の土木学会英文論文集の必要性

2011年の改革・再編の主眼の一つが、英文論文集 *Journal of JSCE* を土木学会の *flagship journal* として拡充することであったことは、多くの方の記憶から消えてしまっているかも知れません。当時、既にIF付きの論文集に掲載されることが重要となってきたことを受けて、土木学会でも国際的に認知された論文集を創ろうという機運が高まっていたのです。この改革・再編は、*flagship journal* を創るという観点からは残念ながら失敗に終わりました。せっかく英文論文を書いたのだから、未だ国際的な認知度の低い *Journal of JSCE* よりも、IF付きの国際誌に出す方を選ぶという方がほとんどだったのです。

それは、水工学の分野でも同様でした。水工学は *Journal of Hydroscience and Hydraulic Engineering* (JHHE) という英文雑誌を持っていましたが、残念ながら

これをIF付きの雑誌へと発展させようという機運は高まりませんでした。現在 JHHE は Journal of JSCE に統合され、事実上の廃刊となっています。

前回（2018年1月）、前々回（2017年10月）の土木学会論文集の編集調整会議において、論文集編集委員会の佐藤委員長から、土木学会論文集の改革に関する方針が示されました（「B1分冊SCI化」資料1）。その方針の要点は、「通常号」と「特集号」の一体的運営、「通常号」の英文論文の増加、英文論文集のSCI (Science Citation Index)対象論文集化、「特集号」の質の確保から成っています。そして特に、英文論文集のSCI対象論文集化が期待される論文集の一つとして、B1分冊（水工学）が挙げられています。

世界中で数多くの Journal が発行されている現状で、いまさら日本発の論文集を発刊する意味があるのかというご意見もあるかも知れません。Google 翻訳や Microsoft Translator のような機械翻訳技術の進歩には、特に近年目覚ましいものがあり、じきに言語の垣根はなくなるという人もいます。たとえ和文で書かれた論文でも興味を引く内容であれば、進歩目覚ましいとはいえ、まだまだ完璧には程遠い WEB 翻訳を使って日本語のわからない人にも読まれるようになっていくのも事実です。それでは、現状のまま翻訳技術の発達を待つということでは本当に良いのでしょうか？

近年、中国の科学論文の発表数が著しく増加しています。論文数から見れば、既に日本を抜いて世界でも有数の科学大国です。その一つの原動力となっているのが中国発の国際誌です。自前で国際誌を持つことは、英文論文投稿のハードルを下げることで投稿数を飛躍的に増大させると同時に、自国の優れた論文を適切に評価し掲載することを可能にします。逆に、編集を他国に任せている限り、たとえ内容のレベルの高い論文でも、英語が上手に書けていないという理由だけで掲載されないことがあります。ひどい例では、日本人がそんなすごい研究をできるはずがないという理由で掲載されないことさえあるのです。ノーベル賞を受賞した野依良治氏の受賞対象の研究成果は外国の国際誌から reject されたそうです。その後論文はやむなく日本化学会の国際誌に投稿されて受理されました。日本化学会が国際誌を持ってなかったら野依氏はノーベル賞を取れなかったかも知れません。そのようなことを避けるためにも、そして科学技術立国日本の優位を取り戻すためにも、自前で国際誌を持つことが必須なのではないでしょうか。

### 3. 土木学会論文集のSCI対象論文集化への道筋

佐藤委員長から示されている土木学会論文集の将来像を示したのが「B1分冊SCI化」資料2です。Page 1が現状の土木学会論文集で、右側が通常号と特集号から成る和文論文集、左側がCEJから成る英文論文集です。Coastal Engineering

Journal (CEJ)は、B2分冊（海岸工学）およびB3分冊（海洋開発工学）関係の英文誌で、すでにSCI対象論文集となっています。これは、1950年代、主として海岸工学論文集の翻訳論文を集めて発刊された *Coastal Engineering in Japan* を前誌とする雑誌で、1998年にSCI対象論文となると同時に改称したものです。

「B1分冊SCI化」資料3にあるように、2011年の東日本大震災津波直後は *impact factor* が2を超え、その後も1近いIFを維持するという国際的にも認知度の高い論文集となっています。

今後、「B1分冊SCI化」資料2のPage2のように、土木学会論文集の通常号と特集号における英文論文集を増加させます。最初は *Translated Journal* という形でも良いでしょう。さらにその後は、Page3のように *Journal of JSCE* のいくつかをSCI対象論文集として発展させ、SCI非対象論文集とともに *Journal of JSCE* として再編します（左側）。また、右側の和文誌は、土木学会論文集である通常号と特集号、それ以外の講演会論文集に再編します。そして、B1分冊の英文論文集も左側のSCI対象論文集の中の一つとして発展させます。以上が、現在、編集委員長から提案されている数年後の土木学会論文集です。

#### 4. B1分冊のSCI対象論文集化に向けて

土木学会論文集B1分冊通常号は、特集号とは異なり水工学委員会が直接編集している論文集ではありません。編集はB1, B2, B3分冊合同編集小委員会が担当していますが、B2およびB3分冊担当の委員は今回のSCI関連の議論には無関係です。また編集に関わる収入および支出は土木学会論文集編集委員会の管轄です。このような状況の下でB1分冊のSCI対象論文集化を実現するには、水工学委員会と各委員の協力が是非とも必要です。そこで、水工学委員会に対して次のようなお願いをする次第です。

まず皆さんには投稿をお願いしたいと思います。IFが付くまでの数年間、論文はなかなか集まらないことが危惧されます。特に業績が必要な若い研究者にIFの付いていない論文集への投稿を期待するのは無理かも知れません。是非ともIF付き業績の必要性がそれほど深刻でなくなった教授の方の投稿をお願いします。一旦IFが付いてしまえば、いつIFが付いたかは重要ではなくなります。したがって、投稿された論文もいずれはIF付き論文と同等と評価されるようになるのですから、投稿論文が永遠に評価されない訳ではありません。2011年以前のCEJの論文数は20編程度ですから、20編あればCSI化も可能ということです。この数は必ずしも難しい数ではないと思います。

また前述したようにB分冊編集小委員会には、既にCEJを有する海岸工学関係の委員もいることから、小委員会がそのままSCI化のための委員となることはできません。やはり水工学委員会のメンバーが中心となって *Working Group*

を作るのが良いと思います。是非、ご協力いただけると幸いです。

そして最後をお願いしたいのが経済的な協力です。前述したように、通常号の予算は論文集編集委員会が担っています。したがってSCI対象論文集化もそちらの予算で行うべきです。実際、英文論文集の拡充は土木学会本体のメリットにもなる事業ですから、そのための予算措置はお願いしてありますし、考慮するとの返事ももらっています。したがって、SCI化に伴う予算は主として編集委員会にお願いする予定ですが、WGのメンバーに対するサポートや論文を集めるための費用等、水工学委員会からの経済的なサポートが必要となる場面も出てくるかも知れません。その場合はよろしくお願いしたいと思います。

以上、まだ具体的な活動方針は立っていませんが、SCI対象論文集化に向けた取り組みに対して、水工学委員会の大多数のメンバーの方のご賛同をいただけると幸いです。また、今後の具体的な活動に対する皆様のご協力を切にお願いいたします。

## 数年後の土木学会論文集

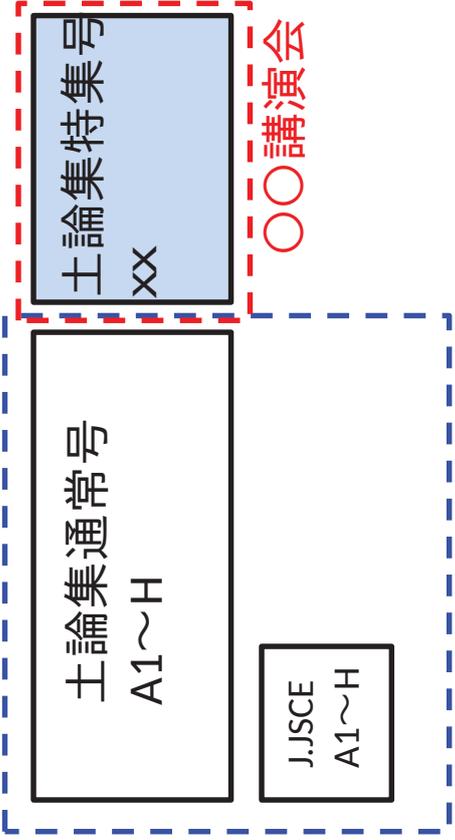
1. 「通常号」と「特集号」を一体的に運営する。投稿要項・査読要領を統一する。購読者はすべての巻号を閲覧可。
2. 「通常号」の英文論文を飛躍的に増やす。土木学会の名前で発刊しているすべての論文集を、「土木学会の論文集」(和英とも)として戦略的に運営する。
3. 英文論文集は、いくつかのSCI対象論文集に育てる。
4. 「特集号」には、講演会やシンポジウムで発表された論文等を含めて良いが、論文の査読基準は「通常号」と同じ水準を維持する。
5. 一定の要件を満たさなくなった「特集号」は、土木学会論文集(Istage)から外す。

# 土論集のリスク分散

CEJ  
JSCE

ガ

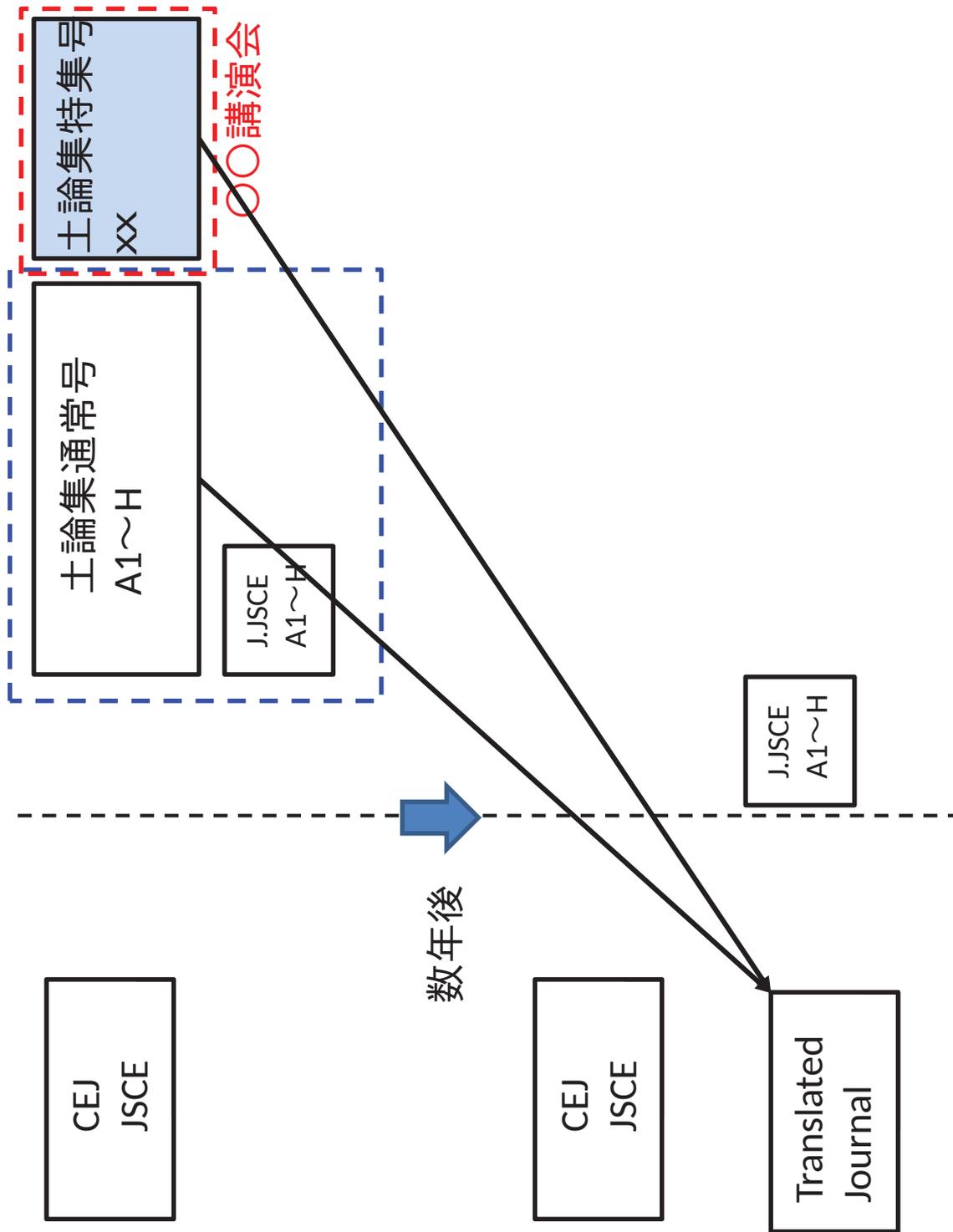
土論集編調会議



# 土論集のリスク分散

ガ

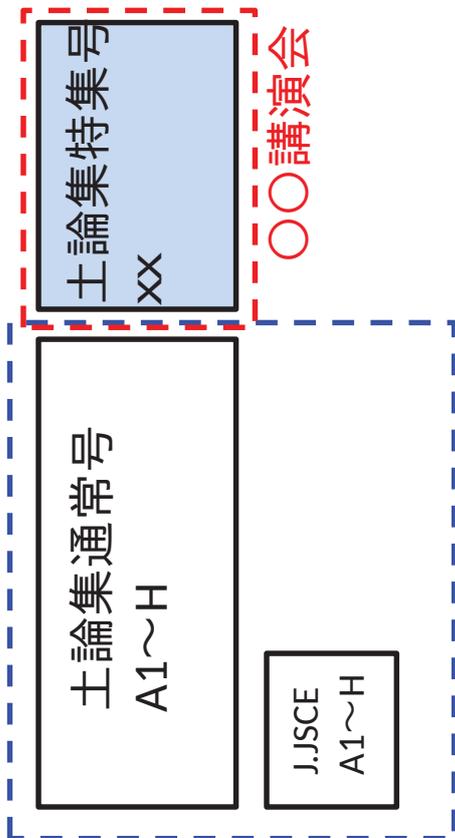
土論集編調会議



# 土論集のリスク分散

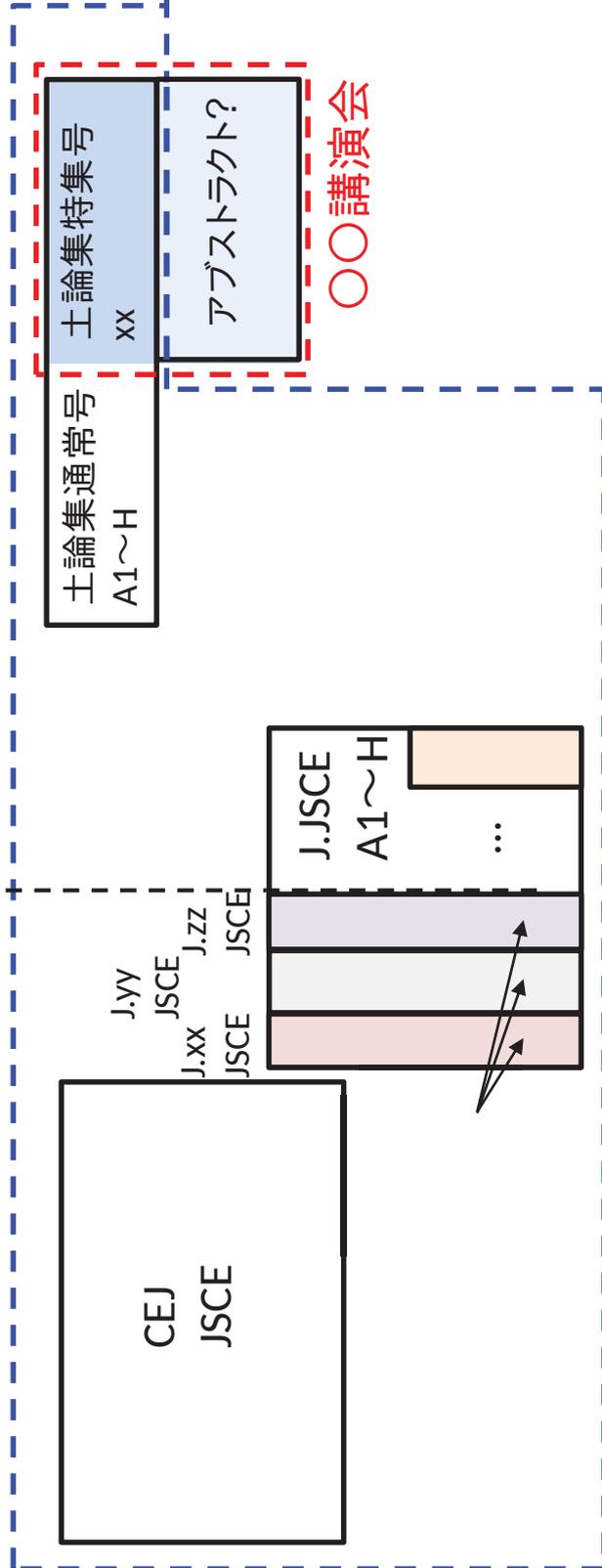
ガ

土論集編調会議



数年後

土木学会が責任をもって編集する  
論文集の戦略調整会議



Volume 59 • Number 2 • June 2017

# COASTAL ENGINEERING JOURNAL

Editor-in-Chief  
**Yasunori Watanabe**  
*Hokkaido University, Japan*

Special Issue on Climate Impacts on Coastal Engineering

Guest Editor: Nobuhito Mori (Kyoto University, Japan)



World Scientific



JAPAN SOCIETY OF CIVIL ENGINEERS  
COASTAL ENGINEERING COMMITTEE

